

ラグビー人口について

A REPORT ON THE NUMBER OF RUGBY PARTICIPANTS

松崎 伸一*
Shinichi MATSUSAKI

Keywords : Rugby football, Participants, declining birth rate

ラグビーフットボール, 競技人口, 少子化

1. はじめに

ラグビー人口の減少が憂慮されている昨今、愛媛県においても第86回(2006年度)全国高等学校ラグビーフットボール大会県予選参加校数が14校・13チーム(2004年度から合同チームでの参加がある)となった。かつて1988年には18校の参加があったが、20年程で4校減少してしまった。ラグビーは3Kスポーツと評されることもあり、しかも1チーム15人を要し、少子化時代においては最も影響を受けそうなスポーツである。さらに昨今では青少年のスポーツ離れを指摘する声も聞かれる。はたして実態はどうか? 2017年えひめ国体を見据えて、今後の普及・育成活動の基礎データとすべく、Web等で公開されているデータをもとに分析を行った。

2. ラグビー人口

まず単刀直入に、わが国におけるラグビーの登録選手数、登録チーム数を調べた。日本ラグビーフットボール協会機関誌¹⁾²⁾に日本協会登録数が公表されているのでそれを図1~2、表1~2に示す。高体連データ³⁾⁴⁾も参考に示した。

まず登録選手数であるが、2005年度で約13万人となっている。その内訳は高校生が最も多く34千人、クラブが32千人、スクールが27千人となっている。推移については、日本協会の過去データを手でできていないので、高体連データ(高校生の登録選手数)でみると、登録選手数のピークは1991年度であり、現在の約2倍の登録があった。推移をさらに細かく分析してみると、1992年度以降2001年度までは急激に減少し、2001年度を底に、現在は横ばいから微増の状態にある。図1にはスクール人口も示しているが、スクール人口は1996年度以降、着実に増加している。この間、小学生人口は減少しているのに、スクール人口は増加しているのである(図3)。高校登録選手数の減少に歯止めがかかり、2002年度以降微増傾向にあるのは、このスクール人口増加の影響が大きいのではないかと考えられる。

参考までに、世界のラグビー人口を表3に示す。データのソースはIRB⁵⁾である。これを見ると、2006年12月時点で日本は世界ラン

キング18位に位置し、競技人口は世界で5番目に多いことがわかる。ニュージーランドとほぼ同等の競技人口を有しているのである。男子競技人口が10万人を超えているのは、イングランド、南アフリカ、フランス、ニュージーランド、日本の5カ国しかないのである(オーストラリア協会は2006年の競技人口を193,000人と発表している⁶⁾。オーストラリア男子競技人口は、IRB(2003)²³⁾では135,142人、IRB(2006)⁹⁾では64,400人となっており、IRBデータの信憑性にはやや疑問がある)。世界の競技人口の観点から見ると、日本の競技人口はそんなに悲観したものでもないのかもしれない。むしろ競技レベル(世界ランキング)が競技人口の多さに追いついていないことの方がより深刻な問題かもしれない。表3では日本はクラブ数が世界で最も多いことがわかる。このため1チームに所属するプレイヤーの数は少なくなっている(表3 Ratio)。日本では、欧米のように地域クラブが主ではなく、学校単位を基本とするクラブが多い。このため1つのクラブに何チームも有する組織は少ない。またクラブチームにおいても、人数が増えると分裂・新チーム発足の傾向がある。こうした国民性や風土に基づく構造的な問題が、昨今のラグビー人口減少に伴って顕在化してきたものと考えられる。

参考までに表4には、各国のラグビー実施率を示す。トンガ、サモア、フィジー、ニュージーランドといったところの実施率が高く、ラグビー・マッド国であることがわかる。

次に登録チーム数についてみてみよう(図2)。全登録チーム数は、1980年代は右肩上がりに増加し、ピークの1992年度には5,103チームを数えた。それが2005年度には3,814となっている。25%の減少である。高校チーム数でみると22%の減少である。高校選手数は半減したが、チーム数ではそこまでの落ち込みはない。1980年代におけるチーム数の増加の要因は、早稲田・本城、同志社・平尾、新日鉄釜石・松尾らのスーパースターの出現等に起因するラグビーチームが主たる要因であろうと考えるが、1987~1992年度は団塊ジュニアが丁度高校生であった時であり、高校生人口の増加もチーム数増加のひとつの要因であろうと考える。

さらに、1980年代における対前年増加数を細かく見てみると、

*愛媛県ラグビーフットボール協会理事(広報担当)
松山東高校ラグビー部OB
銀惑ラグビーフットボールクラブ会員

Director, Ehime Rugby Football Union
Matsuyama East High School Rugby Football Club
Ginwaku Rugby Football Club

<http://www8.ocn.ne.jp/~rugby-e/>
<http://221.114.166.75/rugby/>
<http://221.114.166.75/rugby/ginwaku/>

1984～1985年度のところで増加数が増している。これは『スクール☆ウォーズ』が1984年10月～1985年4月の間、TV放映されており、この影響が現れているものと考えられ、興味深い。

高校登録選手数のピークは1991年度であったが、全チーム数は1992年度がピークである。以降減少に転じるが、この理由としては、高校生人口の減少、Jリーグの発足(1992年)、『スラムダンク』(1990～1996年 週刊少年ジャンプに連載)等に起因するバスケットボールブームなどが考えられる。ただ、1994年度に顕著な谷間(落ち込み)が見える。高体連登録チーム数にはこのような谷間は見えないため、この要因は高校チーム数の増減ではなさそうである。現状のデータでは理由がみえてこないため、データをさらに入手し分析を行いたい。しかし、いずれにしても1992年度以降、チーム数は全体的に減少している。この理由としては、サッカーやバスケットボールの人気向上、高校生人口の減少等が考えられる。さらに1999～2000年度のところでは急激な落ち込みがある。高体連チーム数には急激な減少は見られないので、クラブないし社会人チームの減少に起因するものではないかと考える。バブル崩壊の影響を受け社会人(企業チーム)の数が減ったのか、あるいはクラブチームの世代交代がうまくいかず、消滅したのではないかとと思われるが、正確なところはデータの入手を待ちたい。

このように、ラグビーのチーム数はピーク時に比べて全体で25%の減少、高校では22%の減少。高校登録選手数はほぼ半減という状況であることがわかった。減少事例ばかりを列挙すると悲観的になってしまうが、その中において、データのある1996年度以降、スクールのチーム数・選手数が着実に増加していることは、明るい希望である。

次章以降では、わが国のラグビー人口の中で最も占める割合の大きい、高校生(27%)に絞って増減の状況を精査してみる。

2. 少子化の動向

高校登録選手数の増減は、高校生人口の増減にも負うところが大きい。そこでまず、少子化の動向について調べることにする。

2.1 小中学校および高等学校在籍者数の推移

まず在籍者数を図4および表5に示す。引用したデータは文部科学省学校基本調査⁷⁾(平成18年度)である。

小中高生人口は、団塊世代、団塊ジュニアのピークが顕著である。小学生人口は1981年度以降減少傾向が続いていたが、2000年度前後からやや横ばい傾向を示している。団塊ジュニアの子息が丁度小学生になる時期なのであろう。

いずれにしても1980年代以降、減少傾向にある。

2.2 将来予測

次に、現在進んでいる少子化が、今後どのように進展するのだろうか。国立社会保障・人口問題研究所が「人口の将来推計人口 ―平成14(2002)年1月推計―⁸⁾」を示しているのもそのデータを調べてみた。将来推計は、高位予測、中位予測、低位予測の3種類示されているが、ここでは中位予測を用いるものとする。ただし、社会保障・人口問題研究所のデータでは小中高生人口そのものを予測したデータはない。5歳毎の人口推計が示されているのでこれを用いて

推定することとする。すなわち、推定式は以下のとおりとした。

$$\begin{aligned} \text{小学生人口} &= 5\sim 9 \text{歳人口} \times 3.5/5 + 10\sim 14 \text{歳人口} \times 2.5/5 \\ \text{中学生人口} &= 10\sim 14 \text{歳人口} \times 2.5/5 + 15\sim 19 \text{歳人口} \times 0.5/5 \\ \text{高校生人口} &= 15\sim 19 \text{歳人口} \times 3/5 \times \text{高校進学率} \\ &\quad \times (1 - \text{中途退学率}) \end{aligned}$$

ここで按分率に0.5と半端な値を用いているのは、我が国の人口統計の基礎となる国勢調査が10月1日を基準日としていることを勘案したものである。高校進学率は文部科学省学校基本調査⁷⁾(平成13～18年度)のデータを用いた。将来の進学率については、2006年度の進学率を適用した。また高校退学率については、文部科学省「生徒指導上の諸問題の現状について」(平成17年)⁹⁾に示されている値を用いた。データのない期間については、データの傾向から2%と仮定した(表6)。そして、男女別に人数の推定を行った。推定結果を図5および表6に示す。

図5には、推定精度を検証するため、過去の期間についても同様の手法で小中高生人口を推定し、実績値と比較した。実績値は先に示した文部科学省学校基本調査が示すものである。過去の5歳毎人口は、総務省統計局「我が国の推計人口 大正9年～平成12年」¹⁰⁾を用いた。実績値をドットで、推定値を連続線で示している。推定値は5歳毎の平均値をベースにしているため、急激な変化を表現できていないが、全体的傾向は表現できていると考える。そして将来については、急激な人口変化は予想されないことから、本検討に用いるに十分な予測精度を有していると考えられる。

この予測結果によると、小学生人口は2010年頃まではほぼ現状を維持できるが、以降は急激な減少を示している。中高生人口についても、2020年以降は減少の度合いが増している。高校生人口でみると、2020年以降は、1950年代のレベルに低下してしまうと推計されている。2050年度には、ピークだった1989年度の約4割の230万人にまで減少すると予測されている。現在、スクールの人口が増えているからといって、安閑としていられる状況ではないことがわかる。

3. 高校ラグビー人口の動向

次に、サッカー等、多種目も含めて高校競技人口の推移を見ることにより、高校ラグビー人口の動向を分析してみたい。高体連³⁾・高野連¹¹⁾のデータを用いて分析を行った。ここでは、高校でラグビーをしている生徒はほとんどが男子生徒であろうことから、男子について統計分析を行うことにする。

3.1 登録選手数

男子登録選手数を図6および表7に示す。2006年度現在で選手数が最も多いのは硬式野球、2位がサッカー、3位バスケットの順である。ラグビーは12位となっている。

選手数の推移に着目してみると、意外なことにサッカーの選手数が減っている。図8には、Jリーグ(J1)の1試合平均入場者数を示すが、登録選手数の変化は入場者数と関係が深いことがわかる。どちらも2000年頃に落ち込みがみられる。これはJリーグ発足当初の熱が徐々に冷め、漸減していったが、2002年ワールドカップで持

ち直したものとみられる。

次に顕著なのがテニスである。1999年度以降急増している。他の種目が押しなべて漸減傾向にあるところ、この増加は突出している。1999年には週刊少年ジャンプに「テニスの王子様」の連載が始まったが、この影響を受けてテニス人口が急増していると考えられる。しかしながらテニスの登録選手数も2004年度をピークに減少している。「テニスの王子様」は2001年10月からテレビアニメでも放映されていた(テレビ東京系列)が、これが2005年3月で終了していることから、この影響が現れているのではないかと考える。

バスケットボールについても、この10年間で25%減少している。「スラムダンク」の連載が1996年に終了しており、ブームが冷めつつあることを示すものであろう。

一方、硬式野球はこの10年間順調に選手数を伸ばしている。国内プロ野球は人気低下が懸念されており、実際に巨人戦の視聴率は低下しているが、野球人気は依然根強い¹²⁾ということであろう(表9)。野茂、イチロー、松井に代表されるMLBでの活躍が、小中高生の心をつかんでいるということだろうか。それに加えて『近年退部率が下がっている¹³⁾』との現場の声がある。昔であれば体罰や非合理的なシゴキ等で退部していた生徒がやめなくなったのであろう。

3.2 登録チーム数

男子登録チーム数を図7および表8に示す。2006年度現在でチーム数が最も多いのはバスケットボール、2位が硬式野球、3位サッカーとなっている。ラグビーは15位である。ここ10年間のチーム数の推移に着目してみると、テニスの増え方が顕著である。このほかバドミントンや弓道の増加も着目すべきところであろう。一方、減り方が顕著なのは、バレーボールや柔道である。ラグビーはやはり減少傾向にあるが、2001年度以降は減少度合いが弱くなっている。ラグビーとハンドボールのチーム数がほぼ同じような傾向を示していることは面白い。

3.3 1チームあたりの登録選手数

前出の2つのデータから1チームあたりの登録選手数を求めてみた。これを図10および表10に示す。2006年現在では、1位硬式野球、2位サッカー、3位テニスとなっている。そしてラグビーは4位に位置している。15人を要するスポーツなので部員数が多いのは当たり前ではあるが、2007年にはテニスを抜いて3位に上がりそうな傾向が見える。図9には1996年度以前のデータをラグビーについてのみ示すが、ピークであった1991年当時の部員数は、現在の野球やサッカーと比べてそんな色ないレベルにあったことがわかる。

3.4 全男子高校生に対する実施比率

チーム数や登録選手数の増減は、男子高校生総数の増減の影響を受けることは当たり前のことである。そこで、全男子高校生に対する実施比率の観点で分析してみる。

図11上には男子高校生数を示す。元データは文部科学省学校基本調査⁷⁾である。さらに、高体連登録者数(男子)と高野連登録者数も示す(図11, 表11)。男子高校生総数は急激に減少している。高体連登録者数は1996年度から1999年度にかけて漸減傾向にあるが、1999年度以降はほぼ横ばいである。1990年代後半には高校生のスポ

ーツ人口減少傾向が出ていたが、「テニスの王子様」の影響によりこれにストップがかかっているように考える。

次に、実施比率に移ろう。男子登録者数を全男子高校生数で除いたものを図12および表12に示す。2006年度現在、男子高校生で運動部に属するものの比率は53%である。やはりここでも、1999年度まではスポーツ離れの傾向が見える。種目別に見た場合、ラグビーの実施比率は約2%との数値を得た。時系列で見ると、2000年度を底に増加に転じており、こうした傾向はバスケットボールやバレーボール、柔道などでも見られる。推移に顕著な変化が見られるのは、前述した硬式野球、サッカー、テニスのほかに、卓球、バドミントン、弓道があげられる。卓球は2003年度に急激に増加している。2003年5月には福原愛が中学生で世界選手権ベスト8まで進出しており、この愛ちゃんブームの影響を受けたものと思われる。

弓道の増加理由については正確な分析はできていないが、『弓道教室や研修会等の実施など、弓道指導者の普及努力、およびほとんどの生徒が高校で初めて出会う武道であることが主な理由[福井県立武道館(2006)¹⁴⁾』との指摘がある。さらには、テレビドラマでも綾瀬はるか主演「冬空に月は輝く」や蒼井優出演「夏の約束」でクローズアップされ、弓道人口は増加中のようである。バドミントンについても同様に地道な普及活動の効果ではないかと想像するが、最近では「オグシオ」の登場によりマスコミに取り上げられ機会も多い。ジュニア育成システムの成果と捉えることができるであろう。

1990年代に見られた高校生のスポーツ離れは、現在はストップしているように見える。しかし、図12下からは、スポーツ離れに歯止めがかかっている要因は、テニス人口の増加によるところが大きいと判断される。そのテニスも2005年度以降、男子競技人口が減少に転じており、再びスポーツ離れが懸念される。事実高体連登録率は2006年度は前年度よりも減少している。関(2005)¹⁵⁾は、「テニス、卓球、ソフトテニスなど成長率の高い競技もあるが、占有率は低い。甲子園や国立競技場といった『ブランド』を持つ野球、サッカーの『寡占化』はさらに進むだろう」と予測。「他競技は魅力アップのための情報発信、組織見直しを含めたマーケティング戦略が必要」と指摘している。青少年の競技人口は少年漫画やマスコミの影響を受けやすいことがデータにも現れているが、今後ラグビーの普及を考える場合、マスコミ等を活用したアピールの重要性は認識するが、それと同時に、バドミントンや弓道の普及育成活動を精査してみることも価値があるのではないかとと思う。

4. スポーツ人口

ここで、大元に立ち返ろう。我が国のスポーツ人口は一体どのくらいいるのであろうか?そしてスポーツ人口で見た場合、ラグビーはどの辺りに位置するのであろうか?

スポーツ人口と一言で言っても、その定義は様々である。プロ・アマ、競技人口、愛好人口等々様々なカテゴリでできる。ここでは、プロスポーツ人口、競技スポーツ人口、レジャースポーツ人口の観点からみてみたい。

4.1 プロスポーツ人口

まず、スポーツ選手の頂点とも言えるプロ選手の数であるが、日本プロスポーツ協会が公表している値を図13に示す[大澤(2000)¹⁶⁾

(オリンピックもスポーツ選手の頂点のひとつと考えるが、今回は検討対象外)。1999年と少し古いデータであるが、プロ選手が最も多いのは、競輪(4,312人)、次いで男子ゴルフ(2,052人)の順となっている。野球は791人、サッカーは739人である。高体連自転車競技登録者数(男子)は2006年度で1,576人(28位)である。[ラグビーは28,630人(12位)]。プロがあるから、プロを作れば普及を図ることができるという単純な構図ではないことがわかる。育成システム・普及活動の重要性を示すものとする。

4.2 競技スポーツ人口

次に競技スポーツ人口を表13に示す[大澤(2000)¹⁶⁾]。日本体育協会が取りまとめた資料であるが、1988年とかなり古いデータであることはご注意いただきたい。

これを見ると、競技人口のトップはテニス。以下、柔道、剣道、軟式野球、バレーボール、ソフトテニスとなっている。サッカーは7位(約70万人)にランクされているが、2003年度の日本サッカー協会の登録選手数は男81万人、女2万人となっている。一時は100万人程度まで増えたが、現在はやや減少しているようである。ラグビーは、11位(約14万人)にランクされている。しかし弓道の競技人口は現在15万人程度まで増えているようだ。

4.3 レジャースポーツ人口

4.3.1 成人のスポーツ人口

我が国のスポーツ人口の統計データのひとつに、「スポーツライフ・データ¹⁷⁾」がある。これは、笹川スポーツ財団が1992年から隔年で実施している全国調査であり、2004年に7回目の調査が実施された。この調査は、「実施頻度」「実施時間」「運動強度」の3つの観点からスポーツ人口を量および質の両面から算出しているのが特徴である。調査対象は、全国の市区町村に居住する満20歳以上の者で、標本数は3,000人。有効回収数2,288人(回収率76.3% 男性1,125人、女性1,163人)である。

この調査では、スポーツ実施レベルを表14のように定義し、アクティブ・スポーツ人口(週2回以上、1回30分以上、運動強度「ややきつい」以上)を1,638万人(16.1%)と算出している。積極的にスポーツに取り組んでいる成人は6人に1人ということだ。また、過去1年間に行われた運動やスポーツの種目別実施率(全成人人口に対する実施割合)も調べており、その結果は表15のとおりである。散歩やウォーキングといった軽運動が上位に位置している。競技スポーツでは、バドミントンや卓球、野球等が上位に位置している。一方ラグビーはというと、実施率で0.2%(55位)である。野球の4.5%などと桁が違っている。0.2%を人口に直すと、約20万人となる。スポーツライフ・データ2004は成人の統計であるので、ラグビーの成人競技人口約6万人と比べて大きめの数値である。標本数が3,000人と少ないため、誤差の範囲であろう。あるいは、選手登録はしていないが年1回くらいはOB戦等でゲームにでるとい人もいであろう。しかし0.2%という低い値は、ラグビーは競技スポーツとしてやっている人のみがやっており、レジャースポーツとしての広がりが少ないことを示すものだと思う。

さらに、今後行いたい運動・スポーツについての統計もあるのだが、残念ながらラグビーの回答率は掲載されていない。しかしなが

ら、今後観戦したいスポーツとして、ラグビーは12位・3.4%にランクされている(1位:プロ野球36.3%, 2位:バレーボール16.0%, 3位:大相撲15.4%)。これは、ラグビーが身近にやるスポーツではなく、見るスポーツになりつつある、その傾向が現れているデータではないかと考える。ラグビー選手のフィジカル面が著しく向上した昨今においてはやむを得ないものかもしれない。確かに、初心者がいきなりフルコンタクトのゲームに出場することは危険である。しかし、段階を踏んでステップアップしていけば決して危険なスポーツではないと考える。ラグビーを見るスポーツではなく、やるスポーツそして普及させるためには、ラグビーに対する理解を得る努力が必要である。

ちなみに、好きなスポーツ選手についての問いもあり、257名の選手の名前があげられているが、ラグビー選手の名前は見当たらない。1位:松井秀喜(野球)、2位:イチロー(野球)、3位:高橋尚子(マラソン)となっている。

4.3.2 青少年のスポーツ人口

笹川スポーツ財団は、10代のスポーツライフに関する調査も行っている¹⁸⁾。2001年度から4年毎で実施している全国調査であり、2005年度が2回目の調査であった。この調査も、「スポーツライフ・データ」同様、「実施頻度」「実施時間」「運動強度」の3つの観点から10代のスポーツ人口を量および質の両面から算出している。先のスポーツライフ・データと異なるのは、実施レベルの閾値として、成人統計では週2回としていたのを、週5回としている点である(表16)。調査対象は、全国の市区町村に居住する10代(10~19歳)で、標本数は2,500人。有効回収数1,806人(回収率72.2% 男性894人、女性912人)である。

スポーツ実施レベル毎の実施率は、表16のとおりである。アクティブ・スポーツ人口は前回の20.3%から28.5%へ上昇している。非実施者の割合は1割程度で変わっていないことから、青少年のスポーツ実施者は、現在は増加傾向にあると言える。これは先に示した高体連登録率が2000年代に入って増加していることと整合する。

過去1年間に年1回以上、学校の授業以外で行った運動・スポーツ種目は表17のようになっており、2005年度調査ではサッカーが1位(29.0%)となっている。ラグビーは1.2%となっている。特筆すべきはタグラグビーの実施率が0.7%あることである。しかしサッカーの値に比べるとかなり小さい。ラグビーは青少年が気軽に行えるスポーツになっていないことがわかる。

さらに「よく行った」運動・スポーツは表18のとおりであり、サッカー、バスケットボール、野球が三種の神器のようである。

好きなスポーツ選手については、242名の選手名があげられており、1位:イチロー(野球)、2位:松井秀喜(野球)、3位:中田英寿(サッカー)となっている。ラグビー選手ではただ一人、大田尾竜彦が入っている(115位)。

5. タグラグビー

スポーツライフ・データでみるように(データを見なくとも明らかかなことではあるが)、ラグビーは身近なスポーツとはなっていない。ウエイト・トレーニングの導入以降、トップ選手の体力は格段に向上し、さらに一般人からは縁遠いスポーツとなってしまった感もあ

る。ジョギングやサッカーのように、気軽にラグビーに触れてもらうためにタグラグビーは有効でないかと考える。

タグの普及という点、2004年度よりサントリーが特別協賛となって全国小学生タグラグビー選手権大会が始まった。今年度で3回目の開催となるが、果たして順調に普及が進んでいるかどうか、地区予選出場チーム数の観点から、その推移を調べてみた(表19)。

協会により参加チーム数は大きく異なる。2006年度の愛媛県予選参加チーム数は8チームである。九州協会等と比べると少ないと言わざるを得ない。愛媛県協会のタグ・スクール担当理事は個々には普及に尽力しているが、それだけでは限界があることを示している。昨年度四国ブロック大会に出場した伊予小からは今年度の参加はなく、昨年度伊予小を指導した教諭の転勤先である玉谷小が初参加したこと(玉谷小は見事四国ブロック大会出場)。また、香川県では香川大附属高松小が、ほぼ年間を通して朝の授業開始前にタグラグビーの練習を行い、その努力が実り2005年度および2006年度の香川県チャンピオンとなった。これらは、学校教諭の中に理解者を増やしていかないと、なかなか普及・強化には結びつかないということを示すものではなからうか。

各県協会は様々な普及活動を行っており、主なところでは、

- ・学校体育への取り入れ(横浜市, 福岡市, 北九州市など)
- ・教諭を構成委員とするタグラグビー委員会の発足(京都)
- ・小学生以外も対象としたタグ大会の実施(横浜市, 新潟など)
- ・学校関係者を中心とした研修会実施(島根)
- ・全国高校大会県予選決勝前座試合としてタグ県大会を実施(静岡, 埼玉)
- ・自治体主催のタグ教室開催(東温市)

などがあげられる。日本協会普及育成委員会では、小学校教員や指導者が体育授業の中でタグラグビーの学習指導に取り組む際の具体的な指針としてのガイドブックとDVDを制作している。こうしたものも有効に活用し、理解者を増やしていくべきであろう。

しかし一方では、学校関係者への研修会を実施している島根県では、思うように参加数が増えていない。逆に減っており(10→8→5)、島根県の担当者は学校への普及の難しさを指摘している。また、一教諭からのボトムアップではなかなか学校としてタグを採用してくれない(管理者の承認を得られない)、あるいは保護者への負担増を懸念して導入が進まない、といった現場の声も聞こえてくる。タグの普及については、全国的に試行錯誤の段階にあり、まだまだ課題が多い。

小学生の全国大会という点、テレビ朝日が主催している「30人31脚」が連想される。しかしこの大会、テレビ朝日系列の放送局のない高知県や徳島県の小学生は参加できないそうだ。そのためであろう、「30人31脚」は文部科学省は後援していない。この大会は純粋にスポーツの普及を目指すものでなく、商業主義の感が強く、すっきりしないものがある。一方、全国小学生タグラグビー選手権大会は、文部科学省後援である。いつの日か、タグラグビー選手権大会もメジャーな大会となることを願う。そしてレジャースポーツとして普及し、タグラグビーに興じる子供達があちこちに溢れるようになることを。

6. まとめ

以上、これまで述べてきたことを以下に整理する。

- ①ラグビーの登録選手数は、2005年度で約13万人。
- ②競技人口のトップはテニス。以下、柔道、剣道、軟式野球、バレーボール、ソフトテニスとなっている。ラグビーは、11位にランクされている(データは1988年とかなり古い)
- ③2006年のIRBデータによれば、日本の競技人口は世界的には5番目に多い(オーストラリアの値次第では6番目かもしれない)
- ④高校生の登録選手数のピークは1991年度であり、現在の約2倍の登録があった。1991年度以降減少していたが、現在は横ばいないし微増状態。
- ⑤2006年度現在、男子高校生で運動部に属するものの比率は53%である。種目別に見た場合、ラグビーの実施比率は約2%。
- ⑥男子高校生において、2006年度現在で選手数が最も多いのは硬式野球、2位がサッカー、3位バスケットの順である。ラグビーは12位となっている。
- ⑦1チームあたりの登録選手数については、2006年現在では、1位硬式野球、2位サッカー、3位テニス、4位ラグビーとなっている。ピークであった1991年当時の部員数は、現在の野球やサッカーと比べてそんな色ないレベルにあった。
- ⑧1990年代後半には高校生のスポーツ離れの傾向が出ていたが、現在は歯止めがかかった状況であり、その要因は、テニス人口の増加によるところが大きいと判断される。しかしテニスブームにもかげりがみられ、再びスポーツ離れが懸念される。
- ⑨マスメディアや少年漫画が青少年のスポーツ実施率に与える影響は大きい。爆発的ブームを生むには鍵となる要素である。しかしバスケットの例をみるように一過性のものであり、継続的な発展を企図するならば、草の根普及活動が重要である。そうした観点から、バドミントン・弓道の事例調査は有効ではないかと考える。
- ⑩少子化の動向については、小学生人口は2010年頃まではほぼ現状を維持できるが、以降は急激に減少すると予測されている。中高生人口についても、2020年以降は減少の度合いが増している。高校生人口でみると、2050年度には、ピークだった1989年度の約4割の230万人にまで減少すると予測されている。
- ⑪少子化は現在も進行しているが、その中においても、スクール人口は増加している。
- ⑫アクティブ・スポーツ人口は1638万人(成人人口における比率は16.1%)であり、ラグビーの実施率は0.2%(55位)。ラグビーは競技スポーツとして実施している人のみがやっており、レジャースポーツとしての広がりが少ない。
- ⑬ラグビーは、今後やりたいスポーツとしてはランクインしていないが、今後観戦したいスポーツとして、12位・3.4%にランクされている(1位:プロ野球36.3%, 2位:バレーボール16.0%, 3位:大相撲15.4%)。ラグビーが身近にやるスポーツではなく、見るスポーツになりつつある傾向を示すものと考えられる。
- ⑭ラグビーを見るスポーツではなく、やるスポーツとして普及させるためには、レジャースポーツとして普及させ、競技に対する理解を広く得る必要がある。そのためには、タグラグビーは

有効な手段のひとつであろう。

⑮全国小学生ラグビー選手権大会の普及のためには、学校関係者の中に理解者を増やしていくことが重要である。

ラグビーをプレーしたことのある者は皆、素晴らしいスポーツであると認識していることであろう。しかしながら、昨今では少子化等の影響を受け競技人口が減少している。レジャースポーツとしての広がりが少ないため、「危険」という先入観等から普及が進まない面もあるであろう。そうした中、一方ではスクール人口の増加という明るいデータもある。しかし、日本社会は少子化の道を歩んでいることは疑いのない事実である。愛媛においては全国平均よりも少子化が先行していることであろうから、より深刻な問題である。それを乗り越えてラグビーというスポーツが生き残っていくためには、

○一般への普及が重要であり、競技に対する正しい理解を得るための活動を実施すること（その手段のひとつとしてタグラグビーは有効）

○関(2005)¹⁵⁾の指摘する『ブランド』として、『花園』がある。『サントリーカップ』もブランドとなり得る可能性がある。こうしたブランドやマスコミを有効活用すること

○1 チーム当たりの人数が少ないという我が国固有の構造的問題の解決（現在行われている施策としては合同チームの承認）

○加えて、地道な普及活動の展開

などの施策を実行していく必要があるであろう。

かつてフィジーに旅行した際、空き地でラグビーに興じている子供達を多数見かけた。日本でも、小学校の休み時間にタグラグビーに夢中になる子供達が増えてくれることを願う。そして、そうしたタグの普及はラグビーの競技人口増加にも必ず繋がると信じている。

今回調査し、とりまとめたデータが、ラグビーの普及・育成活動を立案・展開していく際の参考になれば幸いである。

謝辞

本報告には、日本ラグビーフットボール協会、高体連、高野連、SSF 笹川スポーツ財団ほかのデータを使用させていただきました。記して感謝申し上げます。

参考文献

- 1) (財)日本ラグビーフットボール協会：機関誌「RUGBY FOOTBALL」、No.323, Vol.56-1, pp.38, 2006
- 2) (財)日本ラグビーフットボール協会：機関誌「RUGBY FOOTBALL」、No.324, Vol.56-2, pp.28, 2006
- 3) (財)全国高等学校体育連盟：<http://www.zen-koutairen.com/>
- 4) 前田嘉昭：第1回全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会の狙い、Sports for Everyone Network, Opinion 合同チームの壁、http://www.sfen.jp/opinion/godo/hyou1_2.html, 2005
- 5) IRB：International Rugby Board, <http://www.irb.com/EN/Home/>
- 6) ラグビーマガジン：ベースボールマガジン社, No.413, pp.146, 2007.2
- 7) 文部科学省：学校基本調査, http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/index01.
- 8) 国立社会保障・人口問題研究所：「人口の将来推計人口 ー平成14(2002)年1月推計ー」, <http://www.ipss.go.jp/>
- 9) 文部科学省：「生徒指導上の諸問題の現状について」(平成17年), http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/09/06091103.htm
- 10) 総務省統計局：「我が国の推計人口 大正9年～平成12年」, <http://www.stat.go.jp/data/jinsui/wagakuni/index.htm>

- 11) (財)日本高等学校野球連盟：資料, 平成18年度, <http://www.jhbf.or.jp/data/statistical/page01.html>
- 12) 週刊東洋経済：視聴率低迷で崩壊寸前 さらば！巨人依存モデル 曲がり角の日本プロ野球, 2006.12.2, pp.62-64
- 13) 石山貢（愛媛県立松山東高等学校野球部監督）：私信
- 14) 福井県立武道館ホームページ：武道人口調査, <https://info.pref.fukui.jp/sports/budoukan/zinkou-matome18.html>
- 15) 関朋昭：野球・サッカーの「寡占化」進む 男子高校生のスポーツ, 朝日新聞, 2005.11.19
- 16) 大澤清二：スポーツの統計学, 朝倉書店, 2000
- 17) SSF 笹川スポーツ財団：スポーツライフ・データ2004 ースポーツライフに関する調査報告書ー, 2004
- 18) SSF 笹川スポーツ財団：青少年のスポーツライフ・データ2006 ー10代のスポーツライフに関する調査報告書ー, 2006
- 19) 藤島大：最終予選でも「日本流」を貫け～W杯アジア地区最終予選プレビュー・コラム～, スポーツナビ, <http://sportsnavi.yahoo.co.jp/rugby/japan/column/200611/at00011295.html>
- 20) Jリーグ：about Jリーグ, マネジメントデータ, <http://www.j-league.or.jp/about/etc/mobilization.html>
- 21) 全国小学生タグラグビー選手権大会ホームページ：<http://www.rugby.or.jp/tag/index.html>
- 22) (財)日本ラグビーフットボール協会：機関誌「RUGBY FOOTBALL」, No.325, Vol.56-3, pp.27, 2006
- 23) Coppo, R. : Youth participation among top rugby countries, Rugby magazine, <http://www.rugbymag.com/archive/2003/august/editorial.htm>, 2003
- 24) 大島建男・桑原・中村：メジャースポーツへの道, http://triton.soc.rikkyo.ac.jp/~ronkore/final_rep.html

(2007年1月18日 理事会提出)

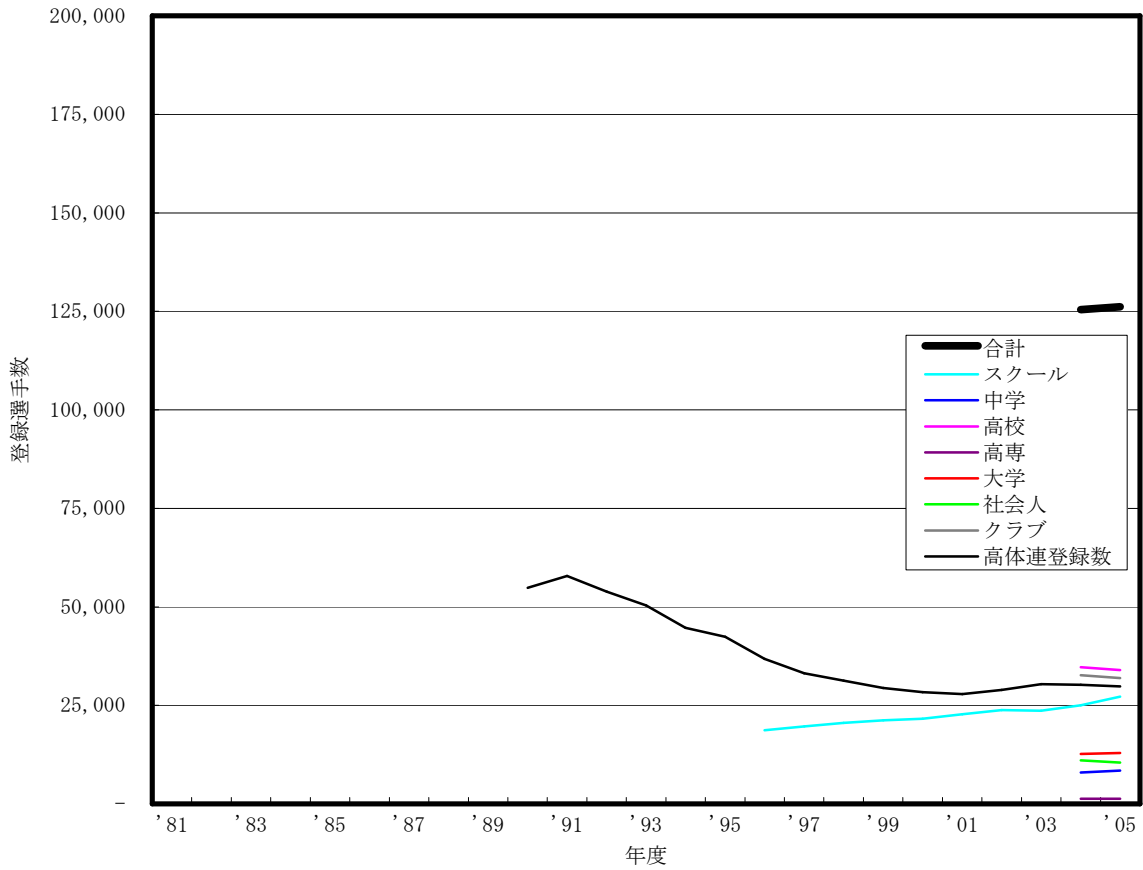


図1 日本協会登録選手数の推移

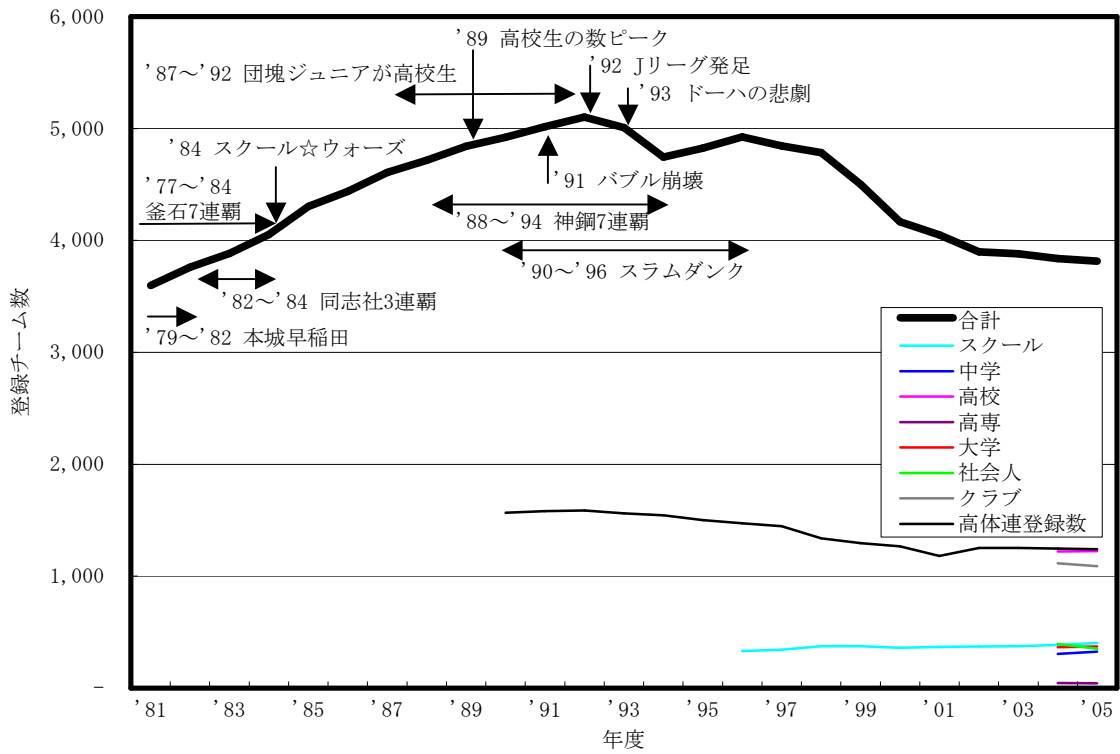


図2 日本協会登録チーム数の推移

表1 日本協会登録選手数の推移

年度	スクール	中学	高校	高専	大学	社会人	クラブ	合計	参考：高体連
'81									
'82									
'83									
'84									
'85									
'86									
'87									
'88									
'89									
'90									54,855
'91									57,826
'92									53,826
'93									50,347
'94									44,676
'95									42,366
'96	18,650								36,838
'97	19,622								33,145
'98	20,544								31,242
'99	21,207								29,431
'00	21,632								28,359
'01	22,740								27,891
'02	23,810								28,919
'03	23,630								30,419
'04	25,053	7,923	34,720	1,290	12,695	11,086	32,625	125,392	30,241
'05	27,198	8,464	33,942	1,306	12,877	10,443	31,894	126,124	29,773

出典：日本ラグビー協会機関誌Vol.56-1,56-2

(財)全国高等学校体育連盟ホームページ <http://www.zen-koutairen.com/>

Sports for Everyone Network ホームページ http://www.sfen.jp/opinion/godo/hyou1_2.html

表2 日本協会登録チーム数の推移

年度	スクール	中学	高校	高専	大学	社会人	クラブ	合計	参考：高体連
'81								3,598	
'82								3,761	
'83								3,883	
'84								4,053	
'85								4,303	
'86								4,439	
'87								4,608	
'88								4,717	
'89								4,843	
'90								4,921	1,566
'91								5,017	1,582
'92								5,103	1,586
'93								5,008	1,561
'94								4,745	1,543
'95								4,824	1,501
'96	333							4,926	1,474
'97	343							4,845	1,447
'98	374							4,785	1,337
'99	375							4,502	1,295
'00	360							4,168	1,267
'01	369							4,050	1,180
'02	372							3,899	1,252
'03	375							3,881	1,252
'04	387	307	1,221	45	366	395	1,116	3,837	1,246
'05	404	326	1,225	44	371	353	1,091	3,814	1,241

出典：日本ラグビー協会機関誌Vol.56-1,56-2

(財)全国高等学校体育連盟ホームページ <http://www.zen-koutairen.com/>

Sports for Everyone Network ホームページ http://www.sfen.jp/opinion/godo/hyou1_2.html

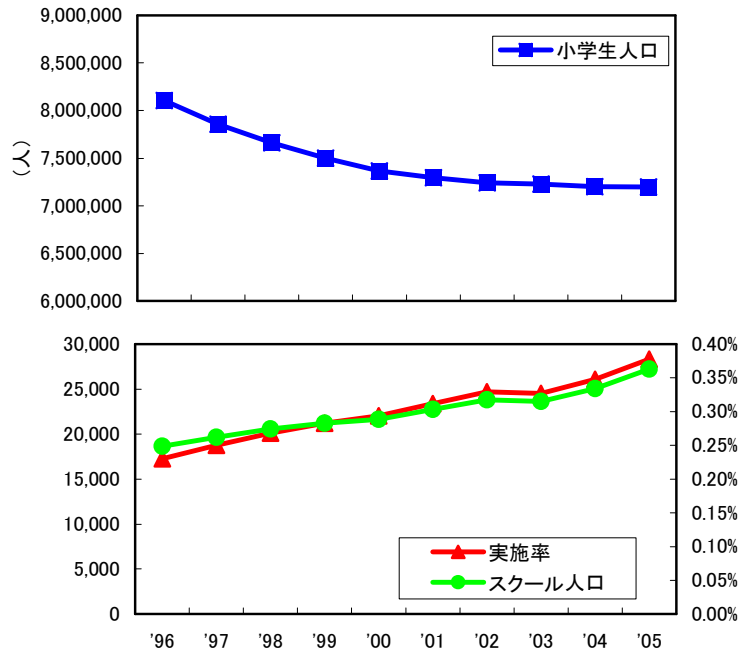


図3 スクール人口と実施率の推移

表3 世界主要国のラグビー人口【Source IRB(2006)】

Position	Member Union	Rating points	No of Clubs a	Playing Numbers		Ratio (b+c)/a
				Male Players b	Female Players c	
1	NEW ZEALAND	94.59	520 ⑧	130,723 ④	11,003 ⑤	273
2	FRANCE	85.94	1,720 ④	206,704 ③	5,355 ⑥	123
3	AUSTRALIA	85.55	752 ⑤	64,400 ⑧	1,995 ⑭	88
4	SOUTH AFRICA	84.71	0	446,821 ②	17,656 ②	—
5	IRELAND	84.68	201	88,418 ⑥	12,556 ④	502
6	ARGENTINA	79.61	317 ⑨	80,295 ⑦	800 ⑩	256
7	ENGLAND	78.68	1,900 ②	657,634 ①	80,010 ①	388
8	WALES	77.02	239	39,000	3,000 ⑨	176
9	SCOTLAND	76.81	242 ⑩	24,245	660 ②	103
10	SAMOA	73.86	0	17,822	4,173 ⑦	—
11	FIJI	73.15	1,800 ③	45,000 ⑩	300	25
12	ITALY	72.79	532 ⑦	41,948	3,428 ⑧	85
13	USA	68.73	570 ⑥	45,843 ⑨	17,411 ③	111
14	CANADA	68.52	9	11,087	2,717 ⑪	1,534
15	ROMANIA	68.37	52	6,675	475	138
16	TONGA	66.04	0	10,036	200	—
17	GEORGIA	65.33	25	2,856	10	115
18	JAPAN	64.95	4,050 ①	124,813 ⑤	1,311 ⑫	31
19	URUGUAY	63.45	0	5,002	143	—
20	RUSSIA	62.82	0	12,300	720 ⑰	—
21	PORTUGAL	61.58	57	4,115	171	75
22	KOREA	60.17	65	3,150	0	48
23	NAMIBIA	59.31	19	10,900	28	575
24	CHILE	59.27	114	16,311	347	146
25	SPAIN	57.84	210	16,322	1,315 ⑮	84
26	MOROCCO	56.50	24	2,575	0	107
27	GERMANY	55.62	99	6,068	1,065 ⑰	72
28	CZECH REPUBLIC	53.94	19	3,535	105	192
29	PARAGUAY	53.82	0	2,245	230	—
30	HONG KONG	53.35	16	6,757	2,435 ⑬	575
31	UKRAINE	53.07	0	2,635	40	—
32	TUNISIA	52.70	0	8,138	2,560 ⑱	—
33	BELGIUM	52.58	48	6,525	450	145
34	MOLDOVA	52.39	4	1,152	330	371
35	BRAZIL	52.31	5	2,235	425	532
36	POLAND	50.78	26	3,440	117	137
37	LATVIA	49.55	7	470	35	72
38	NETHERLANDS	49.53	87	6,942	651	87
39	CROATIA	49.38	14	1,774	148	137
40	KENYA	49.03	18	17,700	2,900 ⑲	1,144

Source : IRB World Rankings 18/12/2006

ENGLANDのFemale Players数は、800,100となっているが、2003年のデータが57,987であったことから1桁表記ミスと判断した

KOREAのラグビー人口は実際には1,000人程度【藤島(2006)¹⁹⁾】のようである

表4 世界主要国のラグビー実施率(2006)

Position	Member Union	Playing Numbers		センサス人口(千人)			年央推計人口(2005)(千人)			実施率		
		Male Players a	Female Players b	year	Total c	Male d	Female e	Total f	Male g=f*d/c	Female h=f*e/c	Male a/1000*g	Female b/1000*h
1	NEW ZEALAND	130,723 ④	11,003 ⑤	01	3,821	1,863	1,957	4,029	1,964	2,064	6.65%	0.53%
2	FRANCE	206,704 ③	5,355 ⑥	99	58,521	28,419	30,101	60,496	29,378	31,117	0.70%	0.02%
3	AUSTRALIA	64,400 ⑧	1,995 ⑭	01	18,972	9,362	6,910	20,155	9,946	7,341	0.65%	0.03%
4	SOUTH AFRICA	446,821 ②	17,656 ②	01	44,820	21,434	23,386	47,432	22,683	24,749	1.97%	0.07%
5	IRELAND	88,418 ⑥	12,556 ④	01	5,589	2,759	2,830	5,845	2,885	2,960	3.06%	0.42%
6	ARGENTINA	80,295 ⑦	800 ⑩	01	36,260	17,659	18,601	38,748	18,871	19,877	0.43%	0.00%
7	ENGLAND	657,634 ①	80,010 ①	01	49,158	23,898	25,260	49,893	24,255	25,638	2.71%	0.31%
8	WALES	39,000	3,000 ⑨	01	2,902	1,411	1,491	2,945	1,432	1,513	2.72%	0.20%
9	SCOTLAND	24,245	660 ⑳	01	5,058	2,459	2,599	5,133	2,496	2,638	0.97%	0.03%
10	SAMOA	17,822	4,173 ⑦	01	177	92	85	185	96	89	18.53%	4.70%
11	FIJI	45,000 ⑩	300	96	775	394	381	848	431	417	10.44%	0.07%
12	ITALY	41,948	3,428 ⑧	01	57,110	27,617	29,493	58,093	28,092	30,001	0.15%	0.01%
13	USA	45,843 ⑨	17,411 ③	00	281,422	138,054	143,368	298,213	146,291	151,922	0.03%	0.01%
14	CANADA	11,087	2,717 ⑪	01	30,007	14,707	15,300	32,269	15,816	16,453	0.07%	0.02%
15	ROMANIA	6,675	475	02	21,681	10,569	11,112	21,711	10,584	11,127	0.06%	0.00%
16	TONGA	10,036	200	96	98	50	48	102	52	50	19.28%	0.40%
17	GEORGIA	2,856	10	02	4,372	2,062	2,310	4,474	2,110	2,364	0.14%	0.00%
18	JAPAN	124,813 ⑤	1,311 ⑮	05	127,757	62,341	65,416	127,757	62,341	65,416	0.20%	0.00%
19	URUGUAY	5,002	143	96	3,164	1,532	1,631	3,463	1,677	1,785	0.30%	0.01%
20	RUSSIA	12,300	720 ⑱	02	145,537	67,806	77,732	143,201	66,718	76,484	0.02%	0.00%
21	PORTUGAL	4,115	171	01	10,356	5,000	5,356	10,494	5,067	5,427	0.08%	0.00%
22	KOREA	3,150	0	00	46,136	23,159	22,978	47,817	24,003	23,815	0.01%	0.00%
23	NAMIBIA	10,900	28	01	1,827	937	890	2,031	1,042	989	1.05%	0.00%
24	CHILE	16,311	347	02	15,116	7,448	7,669	16,295	8,029	8,267	0.20%	0.00%
25	SPAIN	16,322	1,315 ⑮	01	40,847	20,013	20,834	43,064	21,099	21,965	0.08%	0.01%
26	MOROCCO	2,575	0	94	26,019	12,945	13,075	31,479	15,661	15,819	0.02%	0.00%
27	GERMANY	6,068	1,065 ⑰	82,689	41,345	41,345	0.01%	0.00%
28	CZECH REPUBLIC	3,535	105	01	10,230	4,982	5,248	10,220	4,977	5,243	0.07%	0.00%
29	PARAGUAY	2,245	230	02	5,206	2,640	2,566	6,158	3,123	3,035	0.07%	0.01%
30	HONG KONG	6,757	2,435 ⑬	01	6,708	3,285	3,423	7,041	3,448	3,593	0.20%	0.07%
31	UKRAINE	2,635	40	01	48,457	22,441	26,016	46,481	21,526	24,955	0.01%	0.00%
32	TUNISIA	8,138	2,560 ⑫	94	8,786	4,439	4,346	10,103	5,104	4,997	0.16%	0.05%
33	BELGIUM	6,525	450	01	10,296	5,035	5,261	10,419	5,095	5,324	0.13%	0.01%
34	MOLDOVA	1,152	330	89	4,338	2,058	2,279	4,205	1,995	2,210	0.06%	0.01%
35	BRAZIL	2,235	425	00	169,799	83,576	86,223	186,405	91,749	94,656	0.00%	0.00%
36	POLAND	3,440	117	02	38,230	18,516	19,714	38,529	18,661	19,868	0.02%	0.00%
37	LATVIA	470	35	00	2,377	1,095	1,282	2,307	1,063	1,244	0.04%	0.00%
38	NETHERLANDS	6,942	651	02	16,105	7,972	8,133	16,299	8,068	8,231	0.09%	0.01%
39	CROATIA	1,774	148	01	4,437	2,136	2,302	4,552	2,191	2,361	0.08%	0.01%
40	KENYA	17,700	2,900 ⑩	99	28,687	14,206	14,481	34,256	16,964	17,292	0.10%	0.02%

【各国人口データ：総務省統計局・統計研修所 世界の統計2006：http://www.stat.go.jp/data/sekai/index.htm】

センサス人口とは全数調査（センサス）による人口データ

推計人口は、人口センサスが行われない年の人口について計算したもの

ドイツについては、男女比が示されていないため、50%ずつと仮定した

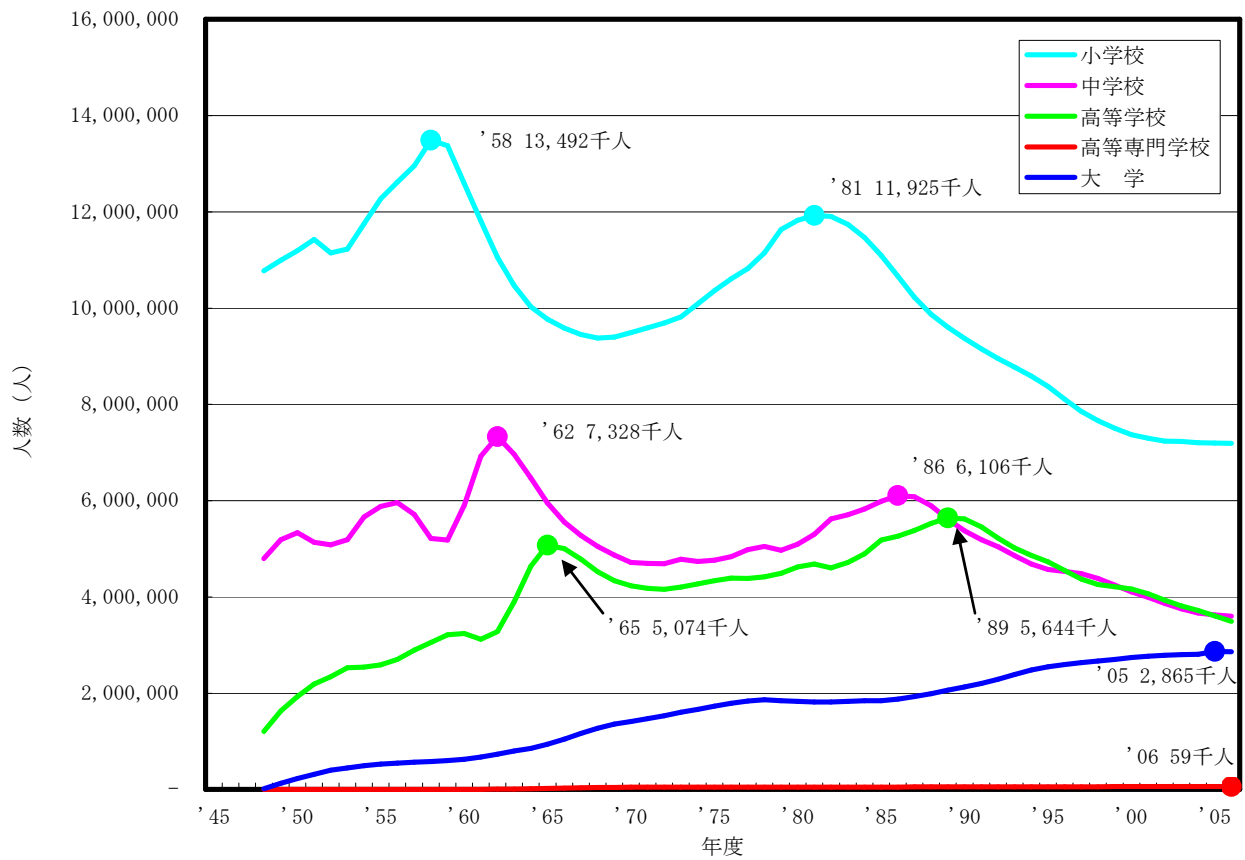


図4 在学者数の推移（実績）

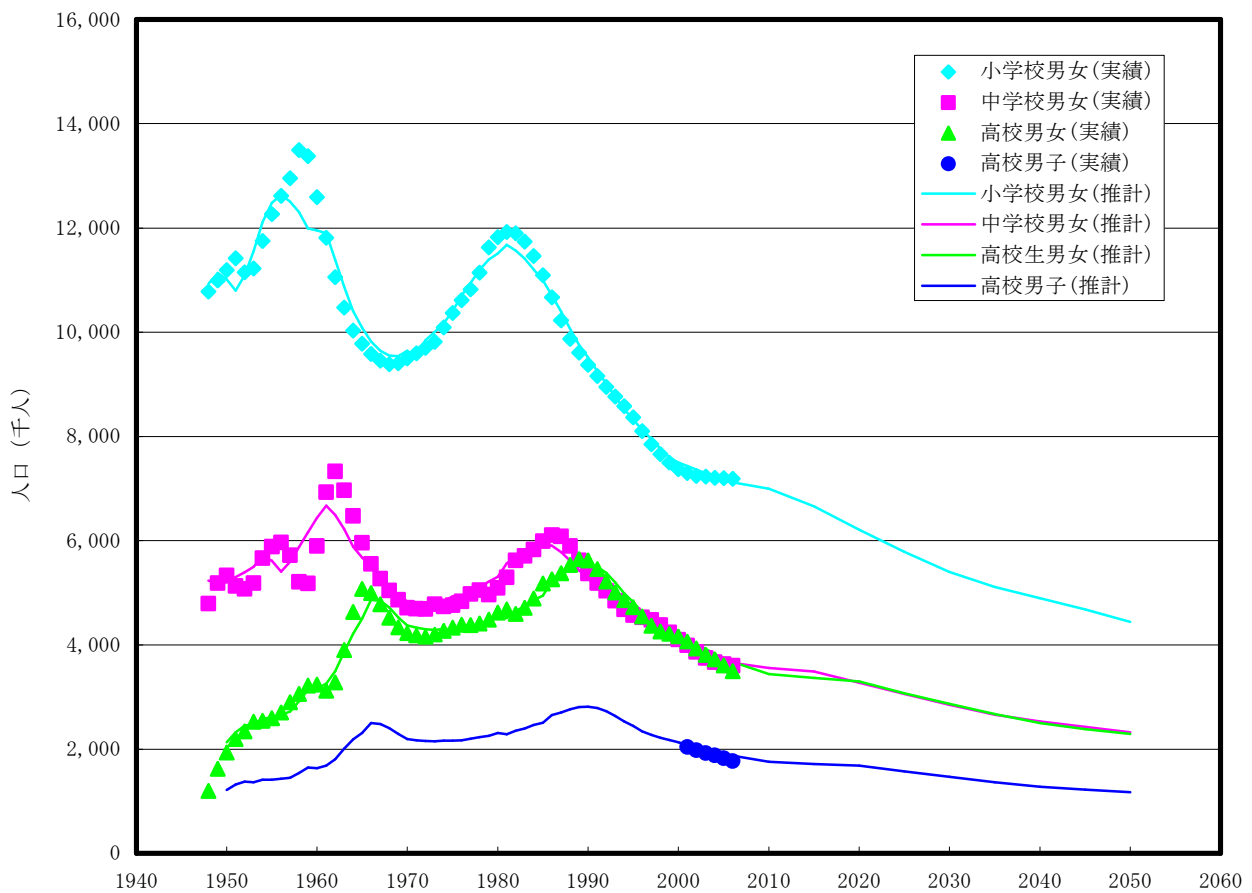


図5 在学者数の将来予測

表5 在学者数の推移（実績）

和暦	西暦	小学校	中学校	高等学校	中等教育学校	高等専門学校	大学
	'45						
	'46						
	'47						
昭和23年	'48	10,774,652	4,792,504	1,203,963	11,978
24	'49	10,991,927	5,186,188	1,624,625	126,868
25	'50	11,191,401	5,332,515	1,935,118	224,923
26	'51	11,422,992	5,129,482	2,193,362	313,158
27	'52	11,148,325	5,076,495	2,342,869	399,513
28	'53	11,225,469	5,187,378	2,528,000	446,927
29	'54	11,750,925	5,664,066	2,545,254	491,956
30	'55	12,266,952	5,883,692	2,592,001	523,355
31	'56	12,616,311	5,962,449	2,702,604	547,253
32	'57	12,956,285	5,718,182	2,897,646	564,454
33	'58	13,492,087	5,209,951	3,057,190	578,060
34	'59	13,374,700	5,180,319	3,216,152	597,697
35	'60	12,590,680	5,899,973	3,239,416	626,421
36	'61	11,810,874	6,924,693	3,118,896	670,192
37	'62	11,056,915	7,328,344	3,281,522	...	3,375	727,104
38	'63	10,471,383	6,963,975	3,896,682	...	8,560	794,100
39	'64	10,030,990	6,475,693	4,634,407	...	15,398	852,572
40	'65	9,775,532	5,956,630	5,073,882	...	22,208	937,556
41	'66	9,584,061	5,555,762	4,997,385	...	28,795	1,044,296
42	'67	9,452,071	5,270,854	4,780,628	...	33,998	1,160,425
43	'68	9,383,182	5,043,069	4,521,956	...	38,365	1,270,189
44	'69	9,403,193	4,865,196	4,337,772	...	41,637	1,354,827
45	'70	9,493,485	4,716,833	4,231,542	...	44,314	1,406,521
46	'71	9,595,021	4,694,250	4,178,327	...	46,707	1,468,538
47	'72	9,696,133	4,688,444	4,154,647	...	47,853	1,529,163
48	'73	9,816,536	4,779,593	4,201,223	...	48,288	1,597,282
49	'74	10,088,776	4,735,705	4,270,943	...	48,391	1,659,338
50	'75	10,364,846	4,762,442	4,333,079	...	47,955	1,734,082
51	'76	10,609,985	4,833,902	4,386,218	...	47,055	1,791,786
52	'77	10,819,651	4,977,119	4,381,137	...	46,762	1,839,363
53	'78	11,146,874	5,048,296	4,414,896	...	46,636	1,862,262
54	'79	11,629,110	4,966,972	4,484,870	...	46,187	1,846,368
55	'80	11,826,573	5,094,402	4,621,930	...	46,348	1,835,312
56	'81	11,924,653	5,299,282	4,682,827	...	46,468	1,822,117
57	'82	11,901,520	5,623,975	4,600,551	...	46,909	1,817,650
58	'83	11,739,452	5,706,810	4,716,105	...	47,245	1,834,493
59	'84	11,464,221	5,828,867	4,891,917	...	47,527	1,843,153
60	'85	11,095,372	5,990,183	5,177,681	...	48,288	1,848,698
61	'86	10,665,404	6,105,749	5,259,307	...	49,174	1,879,532
62	'87	10,226,323	6,081,330	5,375,107	...	50,078	1,934,483
63	'88	9,872,520	5,896,080	5,533,393	...	50,934	1,994,616
平成元	'89	9,606,627	5,619,297	5,644,376	...	51,966	2,066,962
2	'90	9,373,295	5,369,162	5,623,336	...	52,930	2,133,362
3	'91	9,157,429	5,188,314	5,454,929	...	53,698	2,205,516
4	'92	8,947,226	5,036,840	5,218,497	...	54,786	2,293,269
5	'93	8,768,881	4,850,137	5,010,472	...	55,453	2,389,648
6	'94	8,582,871	4,681,166	4,862,725	...	55,938	2,481,805
7	'95	8,370,246	4,570,390	4,724,945	...	56,234	2,546,649
8	'96	8,105,629	4,527,400	4,547,497	...	56,396	2,596,667
9	'97	7,855,387	4,481,480	4,371,360	...	56,294	2,633,790
10	'98	7,663,533	4,380,604	4,258,385	...	56,214	2,668,086
11	'99	7,500,317	4,243,762	4,211,826	236	56,436	2,701,104
12	'00	7,366,079	4,103,717	4,165,434	1,702	56,714	2,740,023
13	'01	7,296,920	3,991,911	4,061,756	2,166	57,017	2,765,705
14	'02	7,239,327	3,862,849	3,929,352	3,020	57,349	2,786,032
15	'03	7,226,910	3,748,319	3,809,827	4,736	57,875	2,803,980
16	'04	7,200,933	3,663,513	3,719,048	6,051	58,698	2,809,295
17	'05	7,197,458	3,626,415	3,605,242	7,456	59,160	2,865,051
18	'06	7,187,428	3,601,528	3,494,274	11,648	59,380	2,859,207

- (注)1 国・公・私立の合計数である。
2 盲学校、聾学校、養護学校は、それぞれ幼稚部・小学部・中学部及び高等部の合計数である。
3 高等学校は、本科・専攻科・別科の合計数である。
4 中等教育学校は、前期課程と後期課程の合計数である。
5 大学、短期大学、高等専門学校は学部、本科のほか、大学院・専攻科・別科・その他の学生の合計数である。
6 通信教育の学生・生徒は含まれていない。

はピーク値

表6 在学者数の将来予測（中位推計）

単位：千人

年度	実績値 ※1							在学者数推計																				
	高等学校			人口推計 5歳毎人口 ※2（中位推計）				高校進学率 ※1（通信制除く）			中途退学率 ※3	在学者数推計									予測-実績							
	計			男			女			計		男			女			男女計										
	男女計	男女計	男女計	男	女	男比率	5~9	10~14	15~19		5~9	10~14	15~19	計	男	女	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
1948	10,775	4,793	1,204				4,720	4,439	4,238	4,613	4,350	4,183	10,928	5,237		5,524	2,643		5,404	2,593					
1949	10,992	5,186	1,625				4,919	4,382	4,276	4,803	4,290	4,207	11,141	5,184		5,634	2,619		5,507	2,566					
1950	11,191	5,333	1,935				4,826	4,401	4,318	4,698	4,300	4,250	42.5	48.0	36.7	2.0	11,017	5,207	2,136	5,579	2,632	1,219	5,439	2,575	917	-174	-125	201
1951	11,423	5,129	2,193				4,612	4,481	4,382	4,480	4,384	4,299	45.6	51.4	39.6	2.0	10,797	5,301	2,325	5,469	2,679	1,324	5,328	2,622	1,001	-626	171	132
1952	11,148	5,076	2,343				4,776	4,570	4,426	4,626	4,462	4,338	47.6	52.9	42.1	2.0	11,097	5,392	2,451	5,628	2,728	1,377	5,469	2,665	1,074	-51	316	108
1953	11,225	5,187	2,528				5,040	4,680	4,417	4,867	4,567	4,329	48.3	52.7	43.7	2.0	11,558	5,498	2,481	5,868	2,782	1,369	5,690	2,716	1,112	333	311	-47
1954	11,751	5,664	2,545				5,297	4,895	4,363	5,102	4,775	4,274	50.9	55.1	46.5	2.0	12,114	5,699	2,582	6,155	2,884	1,414	5,959	2,815	1,169	363	35	37
1955	12,267	5,884	2,592				5,637	4,816	4,341	5,406	4,692	4,284	51.5	55.5	47.4	2.0	12,484	5,617	2,611	6,354	2,842	1,417	6,130	2,774	1,194	217	-267	19
1956	12,616	5,962	2,703				5,909	4,592	4,435	5,667	4,466	4,357	51.3	55.0	47.6	2.0	12,632	5,408	2,654	6,432	2,740	1,434	6,200	2,669	1,219	16	-554	-49
1957	12,956	5,718	2,898				5,695	4,769	4,552	5,465	4,620	4,459	51.4	54.3	48.4	2.0	12,507	5,596	2,722	6,371	2,840	1,453	6,136	2,756	1,269	-450	-123	-175
1958	13,492	5,210	3,057				5,354	5,044	4,672	5,139	4,868	4,567	53.7	56.2	51.1	2.0	12,301	5,880	2,916	6,270	2,989	1,544	6,031	2,891	1,372	-1,191	670	-141
1959	13,375	5,180	3,216				4,952	5,298	4,874	4,750	5,100	4,760	55.4	57.5	53.2	2.0	11,990	6,162	3,137	6,115	3,136	1,648	5,875	3,026	1,489	-1,384	982	-79
1960	12,591	5,900	3,239				4,702	5,620	4,878	4,502	5,397	4,631	57.7	59.6	55.9	2.0	11,951	6,439	3,162	6,101	3,278	1,639	5,850	3,162	1,522	-639	539	-78
1961	11,811	6,925	3,119				4,467	5,896	4,486	4,277	5,661	4,412	62.3	63.8	60.7	2.0	11,899	6,668	3,258	6,075	3,397	1,683	5,824	3,272	1,575	88	-256	139
1962	11,057	7,328	3,282				4,253	5,678	4,698	4,071	5,453	4,585	64.0	65.5	62.5	2.0	11,392	6,494	3,494	5,816	3,309	1,809	5,576	3,185	1,685	335	-835	213
1963	10,471	6,964	3,897				4,115	5,344	4,997	3,936	5,135	4,847	66.8	68.4	65.1	2.0	10,875	6,224	3,865	5,553	3,172	2,010	5,323	3,052	1,855	404	-740	-32
1964	10,031	6,476	4,634				4,055	4,952	5,272	3,880	4,751	5,088	69.3	70.6	67.9	2.0	10,406	5,888	4,220	5,315	3,003	2,189	5,092	2,884	2,031	375	-588	-414
1965	9,776	5,957	5,074				3,995	4,670	5,478	3,854	4,513	5,374	70.7	71.7	69.6	2.0	10,086	5,677	4,509	5,132	2,883	2,310	4,954	2,794	2,199	310	-280	-565
1966	9,584	5,556	4,997				3,965	4,442	5,787	3,824	4,291	5,657	72.3	73.5	71.2	2.0	9,819	5,511	4,869	4,997	2,800	2,501	4,822	2,711	2,368	235	-45	-128
1967	9,452	5,271	4,781				3,991	4,231	5,606	3,845	4,086	5,467	74.5	75.3	73.7	2.0	9,644	5,266	4,851	4,909	2,676	2,482	4,735	2,590	2,369	192	-5	71
1968	9,383	5,043	4,522				4,017	4,103	5,303	3,866	3,959	5,162	76.8	77.0	76.5	2.0	9,549	5,078	4,723	4,863	2,582	2,401	4,686	2,496	2,322	166	34	201
1969	9,403	4,865	4,338				4,044	4,053	4,929	3,890	3,912	4,779	79.4	79.2	79.5	2.0	9,536	4,953	4,529	4,857	2,519	2,295	4,679	2,434	2,234	133	88	192
1970	9,493	4,717	4,232				4,171	4,066	4,572	3,888	3,852	4,492	82.1	81.6	82.7	2.0	9,640	4,835	4,378	4,923	2,460	2,194	4,718	2,375	2,184	147	119	146
1971	9,595	4,694	4,178				4,104	3,979	4,385	3,924	3,824	4,282	85.0	84.1	85.9	2.0	9,521	4,768	4,331	4,862	2,428	2,168	4,659	2,340	2,163	-74	74	153
1972	9,696	4,688	4,155				4,284	4,061	4,259	4,095	3,899	4,140	87.2	86.2	88.2	2.0	9,845	4,820	4,306	5,029	2,456	2,159	4,816	2,364	2,147	149	131	151
1973	9,817	4,780	4,201				4,386	4,087	4,149	4,187	3,921	4,017	89.4	88.3	90.6	2.0	10,005	4,821	4,294	5,114	2,458	2,154	4,891	2,362	2,140	189	41	93
1974	10,089	4,736	4,271				4,487	4,116	4,108	4,281	3,944	3,966	90.8	89.7	91.9	2.0	10,168	4,837	4,310	5,199	2,469	2,167	4,969	2,369	2,143	79	102	39
1975	10,365	4,762	4,333				4,586	4,239	4,043	4,356	4,046	3,909	91.9	91.0	93.0	2.0	10,402	4,938	4,301	5,330	2,524	2,163	5,072	2,414	2,138	37	175	-32
1976	10,610	4,834	4,386				4,858	4,171	4,030	4,612	3,981	3,879	92.6	91.7	93.5	2.0	10,705	4,867	4,306	5,486	2,489	2,173	5,219	2,378	2,133	95	33	-81
1977	10,820	4,977	4,381				4,943	4,305	4,063	4,691	4,106	3,898	93.1	92.2	94.0	2.0	10,949	5,002	4,357	5,613	2,559	2,203	5,337	2,443	2,155	130	24	-24
1978	11,147	5,048	4,415				5,050	4,410	4,096	4,797	4,202	3,922	93.5	92.7	94.4	2.0	11,199	5,108	4,410	5,740	2,615	2,233	5,459	2,493	2,177	52	60	-5
1979	11,629	4,967	4,485				5,120	4,517	4,124	4,864	4,298	3,943	94.0	93.0	95.0	2.0	11,396	5,214	4,458	5,843	2,671	2,255	5,554	2,543	2,203	-233	247	-27
1980	11,827	5,094	4,622				5,147	4,599	4,227	4,891	4,367	4,050	94.2	93.1	95.4	2.0	11,510	5,311	4,586	5,902	2,722	2,314	5,607	2,589	2,272	-317	216	-36
1981	11,925	5,299	4,683				5,073	4,874	4,168	4,821	4,626	3,984	94.3	93.2	95.4	2.0	11,676	5,565	4,519	5,988	2,854	2,284	5,688	2,711	2,235	-249	266	-164
1982	11,902	5,624	4,601				4,928	4,962	4,306	4,686	4,708	4,107	94.3	93.2	95.5	2.3	11,565	5,676	4,652	5,931	2,912	2,353	5,634	2,765	2,299	-337	52	51
1983	11,739	5,707	4,716				4,741	5,071	4,416	4,506	4,817	4,206	94.0	92.8	95.2	2.4	11,417	5,806	4,745	5,854	2,977	2,400	5,563	2,829	2,345	-323	99	29
1984	11,464	5,829	4,892				4,534	5,144	4,525	4,310	4,886	4,305	93.9	92.8	95.0	2.2	11,206	5,898	4,864	5,746	3,025	2,464	5,460	2,874	2,400	-258	69	-28
1985	11,095	5,990	5,178				4,375	5,149	4,603	4,160	4,896	4,381	93.8	92.8	94.9	2.2	10,997	5,921	4,946	5,637	3,035	2,507	5,360	2,886	2,440	-98	-69	-231
1986	10,665	6,106	5,259				4,212	5,076	4,877	4,006	4,826	4,634	93.8	92.8	94.9	2.2	10,704	5,902	5,236	5,486	3,026	2,656	5,217	2,876	2,581	38	-204	-23
1987	10,226	6,081	5,375				4,083	4,931	4,964	3,885	4,691	4,712	93.9	92.8	95.0	2.1	10,389	5,779	5,335	5,324	2,962	2,706	5,065	2,817	2,629	162	-303	-40
1988	9,873	5,896	5,533				3,977	4,745	5,072	3,786	4,512	4,818	94.1	92.9	95.3	2.1	10,063	5,618	5,465	5,156	2,880	2,768	4,906	2,738	2,697	190	-279	-69
1989	9,607	5,619	5,644				3,897	4,539	5,142	3,712	4,317	4,884	94.1	93.0	95.3	2.2	9,754	5,431	5,537	4,997	2,784	2,806	4,757	2,647	2,731	148	-189	-107
1990	9,373	5,369	5,623				3,835	4,385	5,142	3,651	4,163	4,893	94.4	93.2	95.6	2.2	9,514	5,278	5,557	4,877	2,707	2,812	4,637	2,571	2,745	141	-92	-66

年度	実績値 ※1						在学者数推計																								
	小学校	中学校	高等学校			人口推計 5歳毎人口 ※2 (中位推計)						高校進学率 ※1 (通信制除く)			中途退学率 ※3	在学者数推計									予測-実績						
						男			女			計	男	女		計			男			女			男女計						
	男女計	男女計	計	男	女	男比率	5~9	10~14	15~19	5~9	10~14	15~19	計	男	女	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校				
1991	9,157	5,188	5,455				3,755	4,224	5,077	3,574	4,012	4,821	94.6	93.5	95.8	2.1	9,248	5,108	5,501	4,741	2,620	2,788	4,508	2,488	2,713	91	-81	46			
1992	8,947	5,037	5,218				3,670	4,099	4,938	3,492	3,896	4,687	95.0	93.9	96.2	1.9	9,011	4,960	5,383	4,619	2,543	2,729	4,392	2,417	2,654	64	-77	165			
1993	8,769	4,850	5,010				3,566	3,995	4,754	3,390	3,797	4,511	95.3	94.2	96.5	1.9	8,765	4,823	5,198	4,494	2,473	2,636	4,272	2,350	2,562	-4	-28	188			
1994	8,583	4,681	4,863				3,447	3,917	4,550	3,277	3,726	4,317	95.7	94.6	96.8	2.0	8,528	4,708	4,988	4,371	2,414	2,531	4,157	2,295	2,457	-55	27	125			
1995	8,370	4,570	4,725				3,354	3,832	4,392	3,193	3,653	4,175	95.8	94.7	97.0	2.1	8,325	4,599	4,822	4,264	2,355	2,443	4,062	2,244	2,379	-45	29	97			
1996	8,106	4,527	4,547				3,266	3,756	4,227	3,110	3,580	4,016	95.9	94.8	97.1	2.5	8,131	4,492	4,625	4,164	2,301	2,344	3,967	2,192	2,281	26	-35	78			
1997	7,855	4,481	4,371				3,194	3,674	4,105	3,040	3,502	3,900	95.9	94.8	97.0	2.6	7,952	4,389	4,485	4,073	2,248	2,274	3,879	2,141	2,211	96	-93	114			
1998	7,664	4,381	4,258				3,127	3,577	4,002	2,978	3,406	3,806	95.9	94.8	97.0	2.6	7,765	4,272	4,375	3,977	2,189	2,217	3,788	2,084	2,157	101	-108	116			
1999	7,500	4,244	4,212				3,089	3,463	3,922	2,941	3,298	3,733	95.8	94.8	96.9	2.5	7,602	4,146	4,291	3,894	2,124	2,175	3,708	2,022	2,116	101	-98	79			
2000	7,366	4,104	4,165				3,091	3,361	3,843	2,942	3,197	3,659	95.9	95.0	96.8	2.6	7,502	4,029	4,203	3,844	2,065	2,134	3,658	1,964	2,070	136	-75	38			
2001	7,297	3,992	4,062	2,042	2,019	0.503	3,077	3,308	3,749	2,929	3,147	3,568	95.8	95.0	96.7	2.6	7,431	3,959	4,097	3,808	2,029	2,081	3,624	1,930	2,016	134	-33	36			
2002	7,239	3,863	3,929	1,982	1,948	0.504	3,063	3,254	3,654	2,916	3,096	3,477	95.8	95.2	96.5	2.3	7,360	3,888	4,006	3,771	1,993	2,039	3,589	1,896	1,967	121	25	77			
2003	7,227	3,748	3,810	1,928	1,882	0.506	3,049	3,201	3,560	2,903	3,046	3,385	96.1	95.7	96.6	2.2	7,289	3,818	3,918	3,734	1,956	1,999	3,555	1,861	1,919	62	70	108			
2004	7,201	3,664	3,719	1,885	1,834	0.507	3,035	3,147	3,465	2,889	2,996	3,294	96.3	96.0	96.7	2.1	7,218	3,747	3,825	3,698	1,920	1,955	3,520	1,827	1,870	17	84	106			
2005	7,197	3,626	3,605	1,828	1,778	0.507	3,020	3,094	3,371	2,876	2,945	3,203	96.5	96.1	96.8	2.1	7,147	3,677	3,724	3,661	1,884	1,904	3,486	1,793	1,821	-50	51	119			
2006	7,187	3,602	3,494	1,769	1,725	0.506	3,010	3,080	3,318	2,863	2,932	3,153	96.5	96.2	96.8	2.0	7,117	3,653	3,671	3,647	1,872	1,877	3,470	1,781	1,794	-70	52	177			
2010							2,966	3,025	3,107	2,810	2,880	2,952	96.5	96.2	96.8	2.0	6,995	3,558	3,438	3,588	1,823	1,757	3,407	1,735	1,680						
2015							2,763	2,971	3,039	2,618	2,814	2,888	96.5	96.2	96.8	2.0	6,659	3,485	3,363	3,420	1,789	1,719	3,240	1,696	1,644						
2020							2,579	2,769	2,985	2,443	2,622	2,823	96.5	96.2	96.8	2.0	6,211	3,276	3,296	3,190	1,683	1,689	3,021	1,594	1,607						
2025							2,401	2,585	2,784	2,274	2,447	2,632	96.5	96.2	96.8	2.0	5,788	3,058	3,073	2,973	1,571	1,575	2,815	1,487	1,498						
2030							2,246	2,407	2,600	2,127	2,279	2,457	96.5	96.2	96.8	2.0	5,403	2,848	2,869	2,776	1,463	1,471	2,628	1,385	1,398						
2035							2,142	2,252	2,422	2,028	2,131	2,288	96.5	96.2	96.8	2.0	5,111	2,663	2,672	2,625	1,368	1,370	2,485	1,295	1,302						
2040							2,059	2,148	2,267	1,949	2,033	2,141	96.5	96.2	96.8	2.0	4,897	2,531	2,501	2,516	1,301	1,282	2,381	1,231	1,219						
2045							1,964	2,065	2,164	1,859	1,954	2,043	96.5	96.2	96.8	2.0	4,686	2,430	2,387	2,407	1,249	1,224	2,279	1,182	1,163						
2050							1,855	1,970	2,081	1,755	1,864	1,965	96.5	96.2	96.8	2.0	4,444	2,322	2,295	2,283	1,193	1,177	2,161	1,129	1,118						
平均																													-17	-7	18

※1：文部科学省 学校基本調査（H13～18年度） 2010年以降の進学率数値は2006年データを適用（緑文字）

※2：2000年までは総務省統計局「我が国の推計人口 大正9年～平成12年」人口推計資料No.76（実績値）

2005年以降は国立社会保障・人口問題研究所 将来人口推計データベース 「日本の将来推計人口 -平成14(2002)年1月推計-」中位推計データ 赤字は線形補間

※3：退学率は文部科学省「生徒指導上の諸問題の現状について」平成17年による。青字はデータ未入手のため%と仮定

【在学者数推定方法】

小学校=5～9歳人口*3.5/5+10～14歳人口*2.5/5

中学校=10～14歳人口*2.5/5+15～19歳人口*0.5/5

高校=15～19歳人口*3/5*高校進学率*(1-中途退学率)

それぞれ男女別に推定

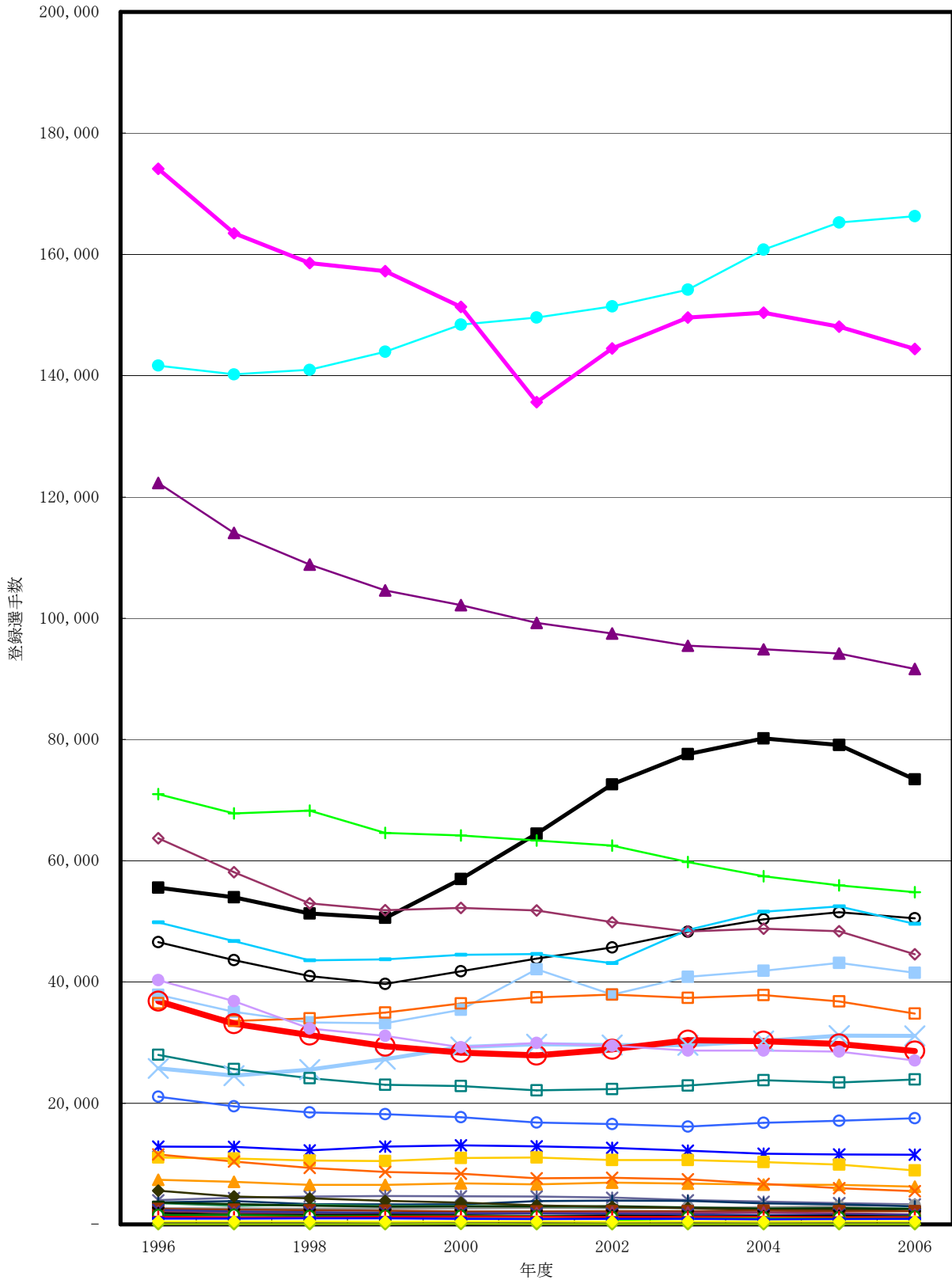
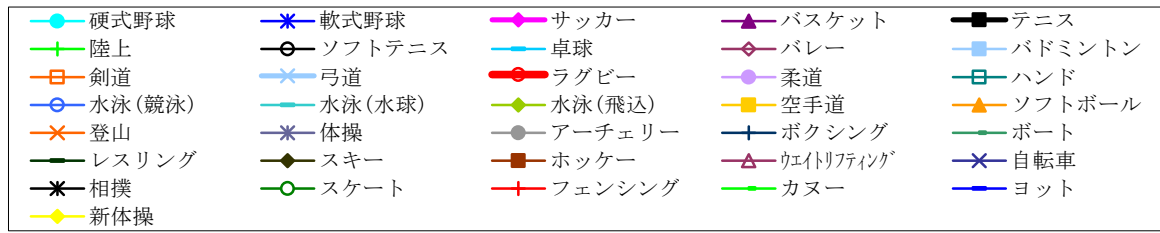


図6 高体連・高野連 男子登録選手数の推移

表7 高体連・高野連 男子登録選手数の推移

年度	高野連			高体連										
	硬式野球	軟式野球	小計	サッカー	バスケット	テニス	陸上	ソフトテニス	卓球	バレー	バドミントン	剣道	弓道	ラグビー
1996	141,689	12,845	154,534	174,121	122,334	55,567	70,967	46,572	49,801	63,714	37,869	36,521	25,757	36,838
1997	140,201	12,821	153,022	163,513	114,047	53,997	67,793	43,578	46,739	58,103	35,105	33,586	24,539	33,145
1998	140,956	12,228	153,184	158,575	108,837	51,325	68,255	40,975	43,537	52,985	33,316	33,995	25,542	31,242
1999	143,977	12,838	156,815	157,251	104,600	50,573	64,575	39,665	43,709	51,861	33,205	34,943	27,261	29,431
2000	148,415	13,060	161,475	151,362	102,153	56,973	64,183	41,758	44,474	52,229	35,412	36,465	29,267	28,359
2001	149,622	12,892	162,514	135,612	99,247	64,441	63,311	43,857	44,612	51,822	42,086	37,474	29,750	27,891
2002	151,437	12,650	164,087	144,508	97,486	72,606	62,492	45,702	43,091	49,874	37,904	37,925	29,612	28,919
2003	154,175	12,195	166,370	149,591	95,459	77,579	59,783	48,278	48,573	48,314	40,841	37,386	29,562	30,419
2004	160,801	11,692	172,493	150,416	94,872	80,178	57,451	50,357	51,624	48,754	41,864	37,849	30,283	30,241
2005	165,293	11,575	176,868	148,109	94,154	79,094	55,955	51,535	52,487	48,359	43,131	36,798	31,169	29,773
2006	166,314	11,524	177,838	144,417	91,624	73,433	54,812	50,530	49,547	44,555	41,507	34,784	31,136	28,630
順位 (2006)	1	16	—	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

年度	高体連													
	柔道	ハンド	水泳(競泳)	水泳(水球)	水泳(飛込)	空手道	ソフトボール	登山	体操	アーチェリー	ボクシング	ボート	レスリング	スキー
1996	40,316	28,007	21,080	1,432	54	11,045	7,365	11,576	4,024	2,661	3,621	3,496	3,593	5,582
1997	36,830	25,600	19,477	1,321	47	10,899	7,035	10,380	4,368	2,632	3,839	3,037	3,349	4,649
1998	32,313	24,115	18,495	1,185	53	10,558	6,540	9,341	4,647	2,577	3,338	3,265	3,071	4,313
1999	31,130	23,013	18,186	1,100	48	10,481	6,570	8,669	4,723	2,611	3,304	3,046	2,921	3,864
2000	29,241	22,820	17,673	1,166	69	10,979	6,816	8,402	4,688	2,643	3,306	2,986	2,973	3,604
2001	29,960	22,092	16,807	1,256	49	11,041	6,645	7,651	4,645	2,695	3,849	3,007	2,943	3,145
2002	29,483	22,315	16,568	1,150	39	10,628	6,923	7,713	4,428	2,673	3,931	2,839	3,004	2,891
2003	28,690	22,888	16,156	1,008	34	10,654	6,739	7,484	3,997	2,735	3,859	2,700	2,789	2,676
2004	28,721	23,765	16,755	1,368	56	10,289	6,609	6,711	3,737	2,822	3,476	2,601	2,573	2,328
2005	28,519	23,408	17,107	1,218	31	9,908	6,536	6,006	3,510	3,014	3,276	2,720	2,655	2,443
2006	27,033	23,921	17,512	1,234	37	8,937	6,241	5,501	3,305	3,187	2,958	2,601	2,560	2,223
順位 (2006)	13	14	15	31	36	17	18	19	20	21	22	23	24	25

年度	高体連										合計
	ホッケー	ウエイトリフティング	自転車	相撲	スケート	フェンシング	カヌー	ヨット	新体操	小計	
1996	2,549	2,178	2,383	1,880	1,539	1,253		975	481	878,268	1,032,802
1997	2,399	1,956	2,137	1,645	1,582	1,165		948	491	819,931	972,953
1998	2,349	1,929	1,995	1,585	1,358	1,118		985	516	784,049	937,233
1999	2,268	1,846	1,921	1,597	1,426	1,269		1,003	466	768,536	925,351
2000	2,125	1,822	1,827	1,497	1,410	1,301		906	512	771,401	932,876
2001	2,107	1,887	1,803	1,397	1,325	1,246		886	513	770,360	932,874
2002	2,151	1,963	1,761	1,468	1,198	1,198	770	925	468	776,713	940,800
2003	2,169	1,967	1,653	1,351	1,200	1,214	927	935	501	790,111	956,481
2004	2,267	1,948	1,556	1,336	1,175	1,207	957	855	478	797,479	969,972
2005	2,167	1,848	1,617	1,408	1,185	1,155	928	885	519	792,627	969,495
2006	2,165	1,646	1,576	1,308	1,278	1,155	921	899	502	763,675	941,513
順位 (2006)	26	27	28	29	30	32	33	34	35	—	—

注：1996、1998、2001、2002年度については各競技数値の和と高体連小計欄の数値とが合致しないが、高体連データをそのまま使用した。アメリカンフットボールのデータは入手できず。

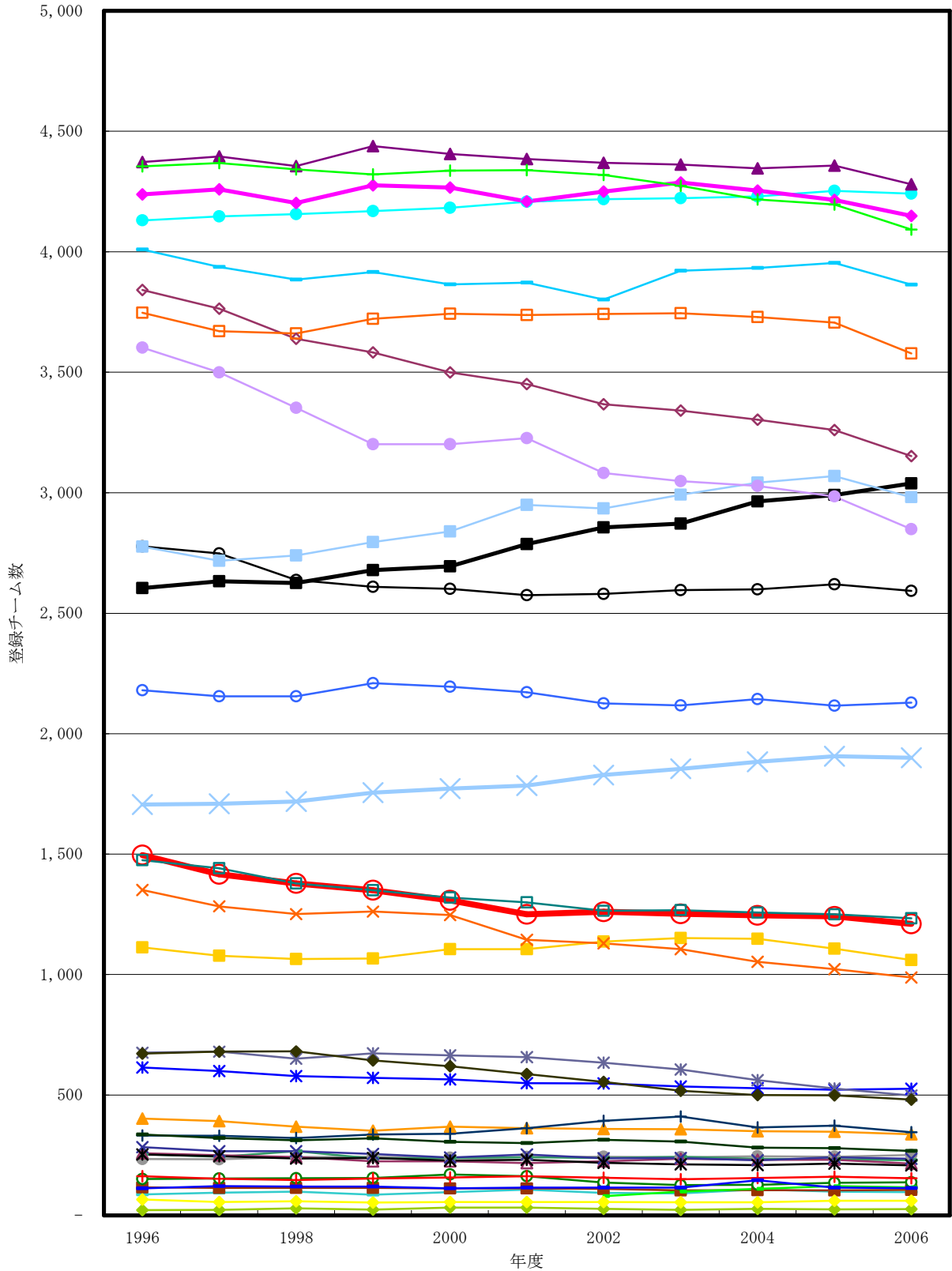
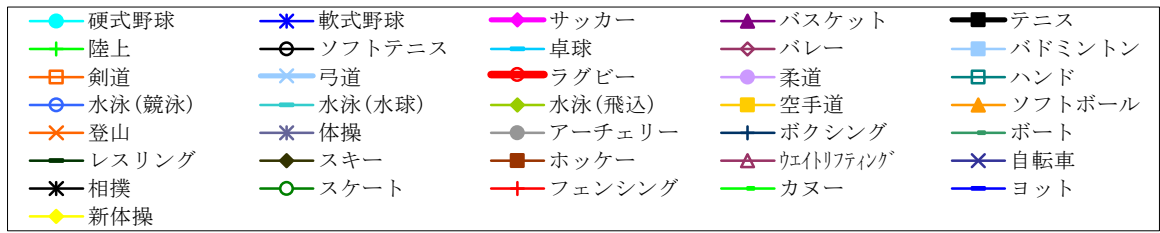


図7 高体連・高野連 男子登録チーム数の推移

表8 高体連・高野連 男子登録チーム数の推移

年度	高野連			高体連										
	硬式野球	軟式野球	小計	サッカー	バスケット	テニス	陸上	ソフトテニス	卓球	バレー	バドミントン	剣道	弓道	ラグビー
1996	4,131	614	4,745	4,238	4,372	2,604	4,355	2,777	4,009	3,841	2,776	3,747	1,705	1,496
1997	4,147	599	4,746	4,259	4,396	2,632	4,368	2,748	3,937	3,764	2,717	3,671	1,709	1,416
1998	4,157	578	4,735	4,203	4,356	2,625	4,342	2,638	3,884	3,639	2,739	3,661	1,718	1,379
1999	4,169	571	4,740	4,276	4,439	2,679	4,321	2,609	3,916	3,583	2,795	3,722	1,755	1,350
2000	4,183	565	4,748	4,267	4,406	2,694	4,337	2,601	3,864	3,499	2,839	3,743	1,771	1,308
2001	4,208	549	4,757	4,209	4,385	2,787	4,339	2,575	3,872	3,451	2,949	3,738	1,784	1,250
2002	4,219	548	4,767	4,250	4,369	2,856	4,319	2,580	3,802	3,367	2,934	3,742	1,828	1,260
2003	4,223	535	4,758	4,288	4,362	2,871	4,274	2,596	3,921	3,341	2,992	3,745	1,854	1,252
2004	4,230	528	4,758	4,254	4,346	2,964	4,217	2,599	3,933	3,303	3,042	3,729	1,884	1,246
2005	4,253	522	4,775	4,215	4,358	2,991	4,197	2,620	3,953	3,260	3,069	3,706	1,907	1,241
2006	4,242	526	4,768	4,149	4,280	3,039	4,092	2,593	3,863	3,152	2,981	3,578	1,900	1,210
順位 (2006)	2	18	—	3	1	8	4	11	5	7	9	6	13	15

年度	高体連													
	柔道	ハンド	水泳(競泳)	水泳(水球)	水泳(飛込)	空手道	ソフトボール	登山	体操	アーチェリー	ボクシング	ボート	レスリング	スキー
1996	3,603	1,475	2,180	87	22	1,113	402	1,351	676	235	332	255	336	671
1997	3,499	1,441	2,155	94	23	1,078	392	1,283	680	234	331	244	322	680
1998	3,352	1,379	2,155	98	29	1,064	369	1,251	651	243	322	267	312	681
1999	3,201	1,350	2,209	86	24	1,066	352	1,261	673	244	336	237	321	643
2000	3,201	1,320	2,195	96	32	1,105	369	1,247	664	240	339	239	306	619
2001	3,226	1,300	2,172	107	32	1,105	362	1,144	657	243	362	242	301	587
2002	3,082	1,264	2,125	93	27	1,137	359	1,129	634	244	393	239	314	554
2003	3,048	1,268	2,117	91	23	1,151	358	1,105	606	242	411	244	307	518
2004	3,028	1,257	2,143	108	27	1,148	350	1,053	562	246	366	236	282	500
2005	2,984	1,250	2,116	98	25	1,107	348	1,022	527	244	373	234	280	499
2006	2,848	1,233	2,129	96	26	1,060	337	988	498	251	346	229	268	481
順位 (2006)	10	14	12	34	36	16	22	17	19	24	21	26	23	20

年度	高体連										合計
	ホッケー	ウエトリフティング	自転車	相撲	スケート	フェンシング	カヌー	ヨット	新体操	小計	
1996	116	259	284	253	152	163		112	66	50,116	54,861
1997	114	250	267	246	154	153		121	55	49,433	54,179
1998	114	243	267	237	155	148		119	59	48,693	53,428
1999	114	225	256	239	156	154		119	53	48,764	53,504
2000	112	225	241	228	171	158		112	55	48,603	53,351
2001	112	218	254	231	163	163		115	56	48,687	53,444
2002	110	225	238	219	137	157	80	115	56	48,263	53,030
2003	104	236	239	213	127	151	98	115	54	48,322	53,080
2004	105	232	229	210	128	156	110	147	54	48,194	52,952
2005	104	232	242	216	136	161	121	115	61	48,012	52,787
2006	106	216	236	208	138	155	116	113	61	46,976	51,744
順位 (2006)	33	27	25	28	30	29	31	32	35	—	—

注：1996、1998、2001、2002年度については各競技数値の和と高体連小計欄の数値とが合致しないが、高体連データをそのまま使用した。アメリカンフットボールのデータは入手できず。

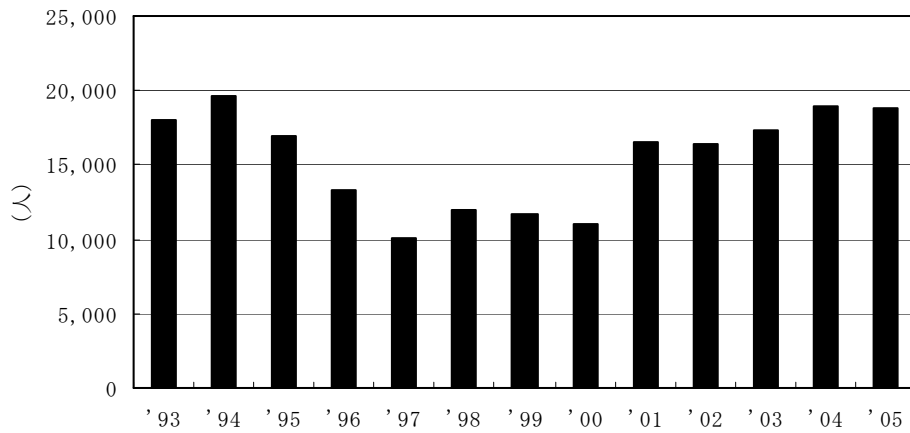


図8 Jリーグ(J1) 1試合平均入場者数の推移【出典：Jリーグ²⁰⁾】

表9 野球の視聴率

試合	放送日	放送局	関東地区視聴率 (%)
06年日本シリーズ第5戦 (日本ハム×中日)	2006年10月26日	テレビ朝日	25.5
06年パ・リーグ プレーオフ (日本ハム×ソフトバンク)	2006年10月12日	テレビ東京	11.5
06年全国高校野球選手権大会決勝 (駒大苫小牧×早稲田実業)	2006年08月20日	NHK	20.7(前半) 29.1(後半)
06年ワールドベースボール・クラシック (決勝：日本×キューバ)	2006年03月20日	日本テレビ	43.4
06年ワールドベースボール・クラシック (準決勝：日本×韓国)	2006年03月18日	TBS	36.2
05年日本シリーズ第4戦 (阪神×ロッテ)	2005年10月26日	TBS	20.0

【出典：東洋経済(2006)¹⁰⁾】

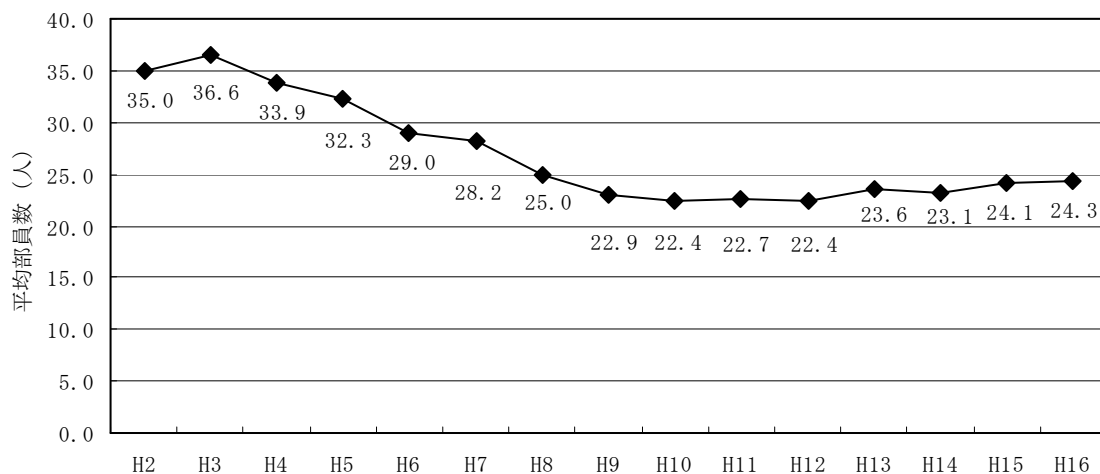


図9 高体連加盟校 ラグビー部平均部員数の推移【出典：前田(2005)⁴⁾】

表10 高体連・高野連 1チームあたりの登録選手数の推移（男子）

年度	高野連			高体連										
	硬式野球	軟式野球	小計	サッカー	バスケット	テニス	陸上	ソフトテニス	卓球	バレー	バドミントン	剣道	弓道	ラグビー
1996	34.3	20.9	—	41.1	28.0	21.3	16.3	16.8	12.4	16.6	13.6	9.7	15.1	24.6
1997	33.8	21.4	—	38.4	25.9	20.5	15.5	15.9	11.9	15.4	12.9	9.1	14.4	23.4
1998	33.9	21.2	—	37.7	25.0	19.6	15.7	15.5	11.2	14.6	12.2	9.3	14.9	22.7
1999	34.5	22.5	—	36.8	23.6	18.9	14.9	15.2	11.2	14.5	11.9	9.4	15.5	21.8
2000	35.5	23.1	—	35.5	23.2	21.1	14.8	16.1	11.5	14.9	12.5	9.7	16.5	21.7
2001	35.6	23.5	—	32.2	22.6	23.1	14.6	17.0	11.5	15.0	14.3	10.0	16.7	22.3
2002	35.9	23.1	—	34.0	22.3	25.4	14.5	17.7	11.3	14.8	12.9	10.1	16.2	23.0
2003	36.5	22.8	—	34.9	21.9	27.0	14.0	18.6	12.4	14.5	13.7	10.0	15.9	24.3
2004	38.0	22.1	—	35.4	21.8	27.1	13.6	19.4	13.1	14.8	13.8	10.1	16.1	24.3
2005	38.9	22.2	—	35.1	21.6	26.4	13.3	19.7	13.3	14.8	14.1	9.9	16.3	24.0
2006	39.2	21.9	—	34.8	21.4	24.2	13.4	19.5	12.8	14.1	13.9	9.7	16.4	23.7
順位 (2006)	1	5	—	2	6	3	14	8	16	12	13	19	11	4

年度	高体連													
	柔道	ハンド	水泳(競泳)	水泳(水球)	水泳(飛込)	空手道	ソフトボール	登山	体操	アーチェリー	ボクシング	ボート	レスリング	スキー
1996	11.2	19.0	9.7	16.5	2.5	9.9	18.3	8.6	6.0	11.3	10.9	13.7	10.7	8.3
1997	10.5	17.8	9.0	14.1	2.0	10.1	17.9	8.1	6.4	11.2	11.6	12.4	10.4	6.8
1998	9.6	17.5	8.6	12.1	1.8	9.9	17.7	7.5	7.1	10.6	10.4	12.2	9.8	6.3
1999	9.7	17.0	8.2	12.8	2.0	9.8	18.7	6.9	7.0	10.7	9.8	12.9	9.1	6.0
2000	9.1	17.3	8.1	12.1	2.2	9.9	18.5	6.7	7.1	11.0	9.8	12.5	9.7	5.8
2001	9.3	17.0	7.7	11.7	1.5	10.0	18.4	6.7	7.1	11.1	10.6	12.4	9.8	5.4
2002	9.6	17.7	7.8	12.4	1.4	9.3	19.3	6.8	7.0	11.0	10.0	11.9	9.6	5.2
2003	9.4	18.1	7.6	11.1	1.5	9.3	18.8	6.8	6.6	11.3	9.4	11.1	9.1	5.2
2004	9.5	18.9	7.8	12.7	2.1	9.0	18.9	6.4	6.6	11.5	9.5	11.0	9.1	4.7
2005	9.6	18.7	8.1	12.4	1.2	9.0	18.8	5.9	6.7	12.4	8.8	11.6	9.5	4.9
2006	9.5	19.4	8.2	12.9	1.4	8.4	18.5	5.6	6.6	12.7	8.5	11.4	9.6	4.6
順位 (2006)	21	9	26	15	36	24	10	34	32	17	23	18	20	35

年度	高体連										合計
	ホッケー	ウエトリフティング	自転車	相撲	スケート	フェンシング	カヌー	ヨット	新体操	小計	
1996	22.0	8.4	8.4	7.4	10.1	7.7		8.7	7.3	—	—
1997	21.0	7.8	8.0	6.7	10.3	7.6		7.8	8.9	—	—
1998	20.6	7.9	7.5	6.7	8.8	7.6		8.3	8.7	—	—
1999	19.9	8.2	7.5	6.7	9.1	8.2		8.4	8.8	—	—
2000	19.0	8.1	7.6	6.6	8.2	8.2		8.1	9.3	—	—
2001	18.8	8.7	7.1	6.0	8.1	7.6		7.7	9.2	—	—
2002	19.6	8.7	7.4	6.7	8.7	7.6	9.6	8.0	8.4	—	—
2003	20.9	8.3	6.9	6.3	9.4	8.0	9.5	8.1	9.3	—	—
2004	21.6	8.4	6.8	6.4	9.2	7.7	8.7	5.8	8.9	—	—
2005	20.8	8.0	6.7	6.5	8.7	7.2	7.7	7.7	8.5	—	—
2006	20.4	7.6	6.7	6.3	9.3	7.5	7.9	8.0	8.2	—	—
順位 (2006)	7	29	31	33	22	30	28	27	25	—	—

注：1996、1998、2001、2002年度については各競技数値の和と高体連小計欄の数値とが合致しないが、高体連データをそのまま使用した

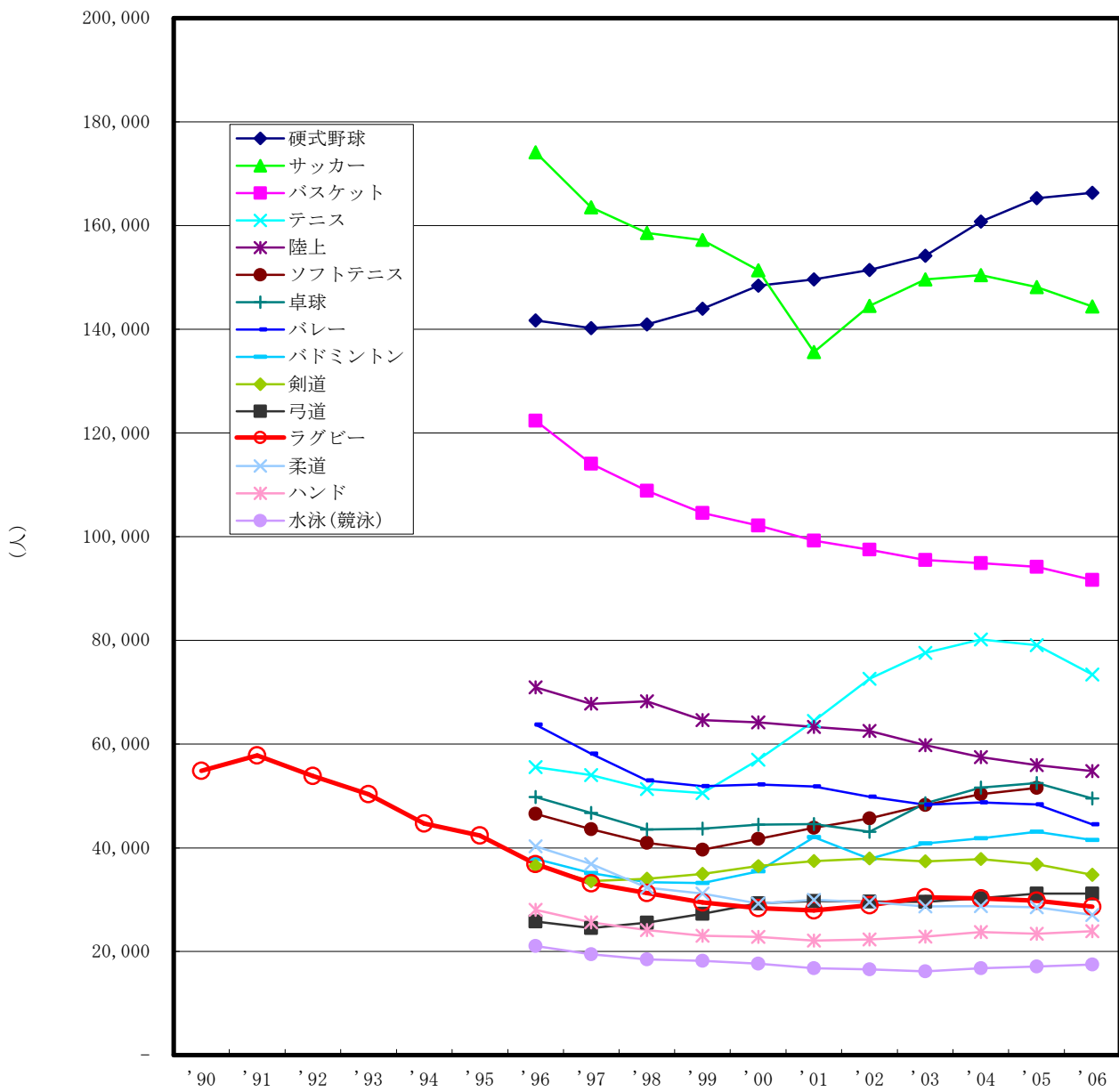
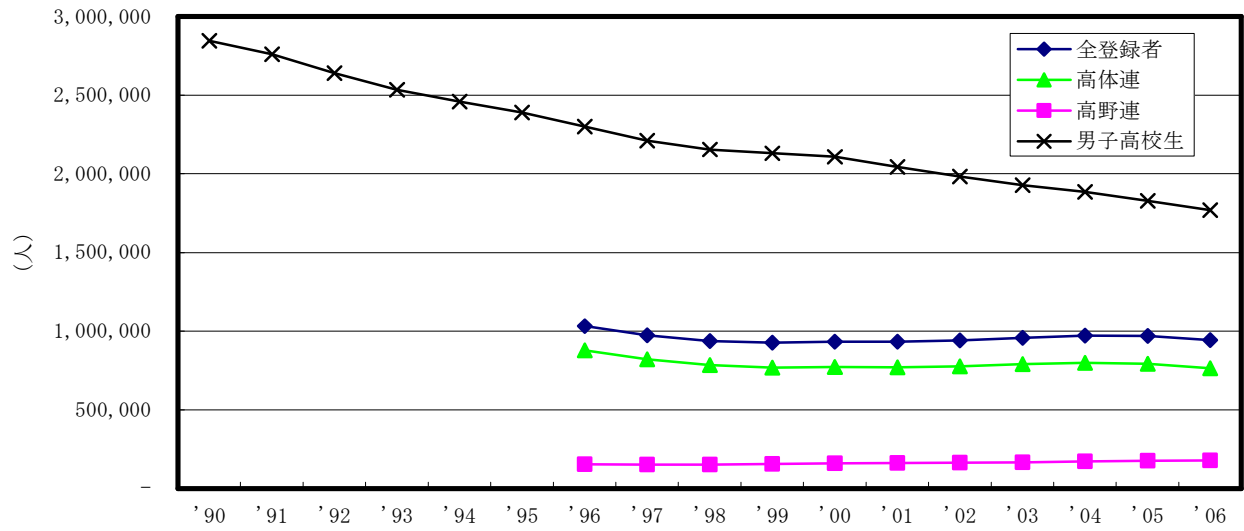


図11 男子高校生の競技人口

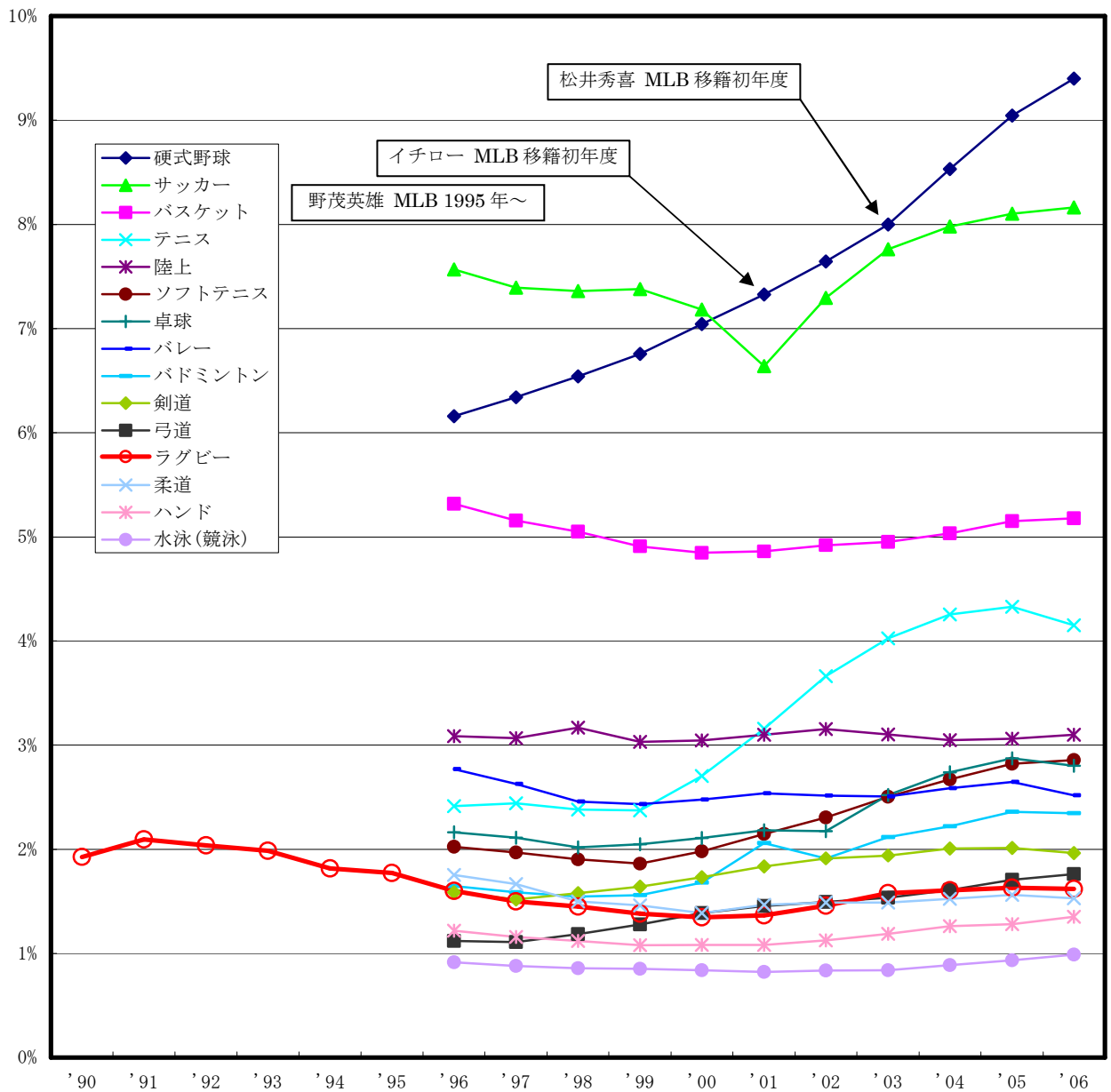
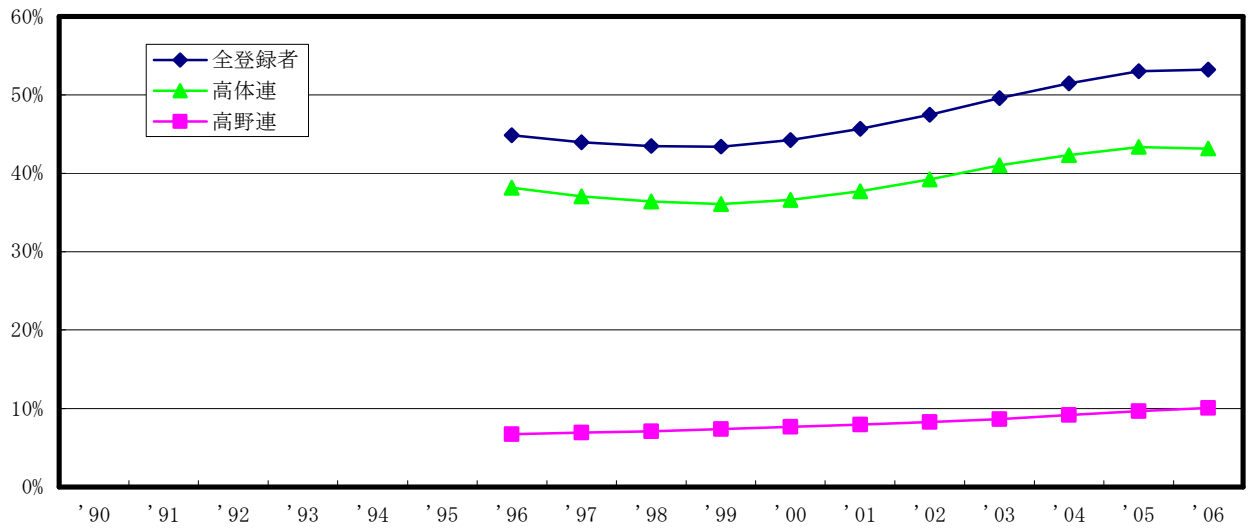


図12 男子高校生の実施比率

表11 男子高校生の競技人口

年度	高校生 (千人)	男子高校生 (千人)	男子 比率	全登録者 (人)	高野連 (人)	高体連 (人)	硬式野球 (人)	サッカー (人)	バスケット (人)	テニス (人)	陸上 (人)	ソフトテニス (人)	卓球 (人)	バレー (人)	バドミントン (人)	剣道 (人)	弓道 (人)	ラグビー (人)	柔道 (人)	ハンド (人)	水泳(競泳) (人)	
'90	5,623	2,845	0.506															54,855				
'91	5,455	2,760	0.506															57,826				
'92	5,218	2,641	0.506															53,826				
'93	5,010	2,535	0.506															50,347				
'94	4,863	2,461	0.506															44,676				
'95	4,725	2,391	0.506															42,366				
'96	4,547	2,301	0.506	1,032,802	154,534	878,268	141,689	174,121	122,334	55,567	70,967	46,572	49,801	63,714	37,869	36,521	25,757	36,838	40,316	28,007	21,080	
'97	4,371	2,212	0.506	972,953	153,022	819,931	140,201	163,513	114,047	53,997	67,793	43,578	46,739	58,103	35,105	33,586	24,539	33,145	36,830	25,600	19,477	
'98	4,258	2,155	0.506	937,233	153,184	784,049	140,956	158,575	108,837	51,325	68,255	40,975	43,537	52,985	33,316	33,995	25,542	31,242	32,313	24,115	18,495	
'99	4,212	2,131	0.506	925,351	156,815	768,536	143,977	157,251	104,600	50,573	64,575	39,665	43,709	51,861	33,205	34,943	27,261	29,431	31,130	23,013	18,186	
'00	4,165	2,108	0.506	932,876	161,475	771,401	148,415	151,362	102,153	56,973	64,183	41,758	44,474	52,229	35,412	36,465	29,267	28,359	29,241	22,820	17,673	
'01	4,062	2,042	0.503	932,874	162,514	770,360	149,622	135,612	99,247	64,441	63,311	43,857	44,612	51,822	42,086	37,474	29,750	27,891	29,960	22,092	16,807	
'02	3,929	1,982	0.504	940,800	164,087	776,713	151,437	144,508	97,486	72,606	62,492	45,702	43,091	49,874	37,904	37,925	29,612	28,919	29,483	22,315	16,568	
'03	3,810	1,928	0.506	956,481	166,370	790,111	154,175	149,591	95,459	77,579	59,783	48,278	48,573	48,314	40,841	37,386	29,562	30,419	28,690	22,888	16,156	
'04	3,719	1,885	0.507	969,972	172,493	797,479	160,801	150,416	94,872	80,178	57,451	50,357	51,624	48,754	41,864	37,849	30,283	30,241	28,721	23,765	16,755	
'05	3,605	1,828	0.507	969,495	176,868	792,627	165,293	148,109	94,154	79,094	55,955	51,535	52,487	48,359	43,131	36,798	31,169	29,773	28,519	23,408	17,107	
'06	3,494	1,769	0.506	941,513	177,838	763,675	166,314	144,417	91,624	73,433	54,812	50,530	49,547	44,555	41,507	34,784	31,136	28,630	27,033	23,921	17,512	
2006年度部員数ランキング→								1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15

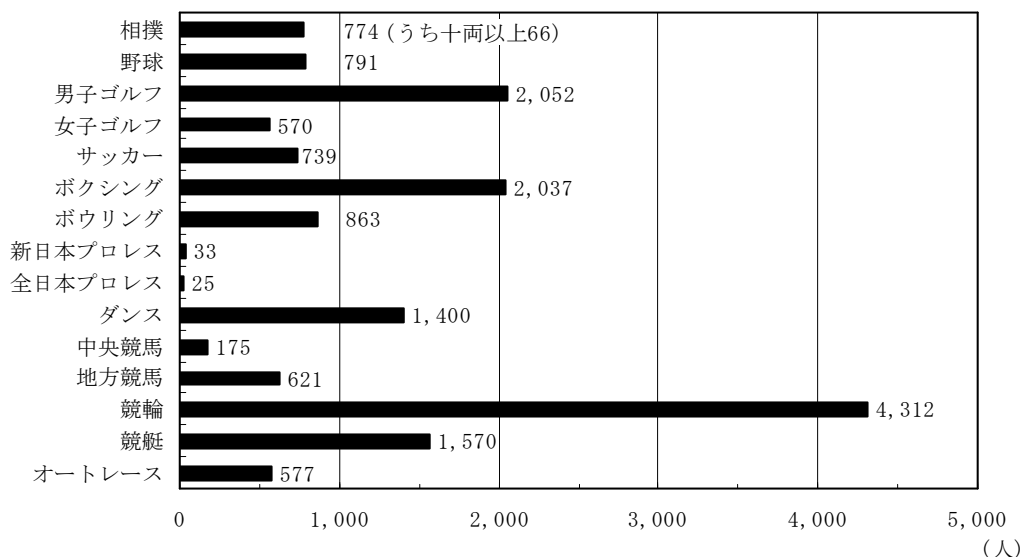
出典：日本ラグビー協会機関誌Vol.56-1,56-2

(財)全国高等学校体育連盟ホームページ <http://www.zen-koutairen.com/>Sports for Everyone Network ホームページ http://www.sfen.jp/opinion/godo/hyou1_2.html

男子高校生数の赤字は男子比率を2001～2006年平均値0.506を適用して推定

表12 男子高校生の実施比率

年度	男子高校生 (%)	全登録者 (%)	高野連 (%)	高体連 (%)	硬式野球 (%)	サッカー (%)	バスケット (%)	テニス (%)	陸上 (%)	ソフトテニス (%)	卓球 (%)	バレー (%)	バドミントン (%)	剣道 (%)	弓道 (%)	ラグビー (%)	柔道 (%)	ハンド (%)	水泳(競泳) (%)	
'90	100.0%															1.9%				
'91	100.0%															2.1%				
'92	100.0%															2.0%				
'93	100.0%															2.0%				
'94	100.0%															1.8%				
'95	100.0%															1.8%				
'96	100.0%	44.9%	6.7%	38.2%	6.2%	7.6%	5.3%	2.4%	3.1%	2.0%	2.2%	2.8%	1.6%	1.6%	1.1%	1.6%	1.8%	1.2%	0.9%	
'97	100.0%	44.0%	6.9%	37.1%	6.3%	7.4%	5.2%	2.4%	3.1%	2.0%	2.1%	2.6%	1.6%	1.5%	1.1%	1.5%	1.7%	1.2%	0.9%	
'98	100.0%	43.5%	7.1%	36.4%	6.5%	7.4%	5.1%	2.4%	3.2%	1.9%	2.0%	2.5%	1.6%	1.5%	1.2%	1.4%	1.5%	1.1%	0.9%	
'99	100.0%	43.4%	7.4%	36.1%	6.8%	7.4%	4.9%	2.4%	3.0%	1.9%	2.1%	2.4%	1.6%	1.6%	1.3%	1.4%	1.5%	1.1%	0.9%	
'00	100.0%	44.3%	7.7%	36.6%	7.0%	7.2%	4.8%	2.7%	3.0%	2.0%	2.1%	2.5%	1.7%	1.7%	1.4%	1.3%	1.4%	1.1%	0.8%	
'01	100.0%	45.7%	8.0%	37.7%	7.3%	6.6%	4.9%	3.2%	3.1%	2.1%	2.2%	2.5%	2.1%	1.8%	1.5%	1.4%	1.5%	1.1%	0.8%	
'02	100.0%	47.5%	8.3%	39.2%	7.6%	7.3%	4.9%	3.7%	3.2%	2.3%	2.2%	2.5%	1.9%	1.9%	1.5%	1.5%	1.5%	1.1%	0.8%	
'03	100.0%	49.6%	8.6%	41.0%	8.0%	7.8%	5.0%	4.0%	3.1%	2.5%	2.5%	2.5%	2.1%	1.9%	1.5%	1.6%	1.5%	1.2%	0.8%	
'04	100.0%	51.5%	9.2%	42.3%	8.5%	8.0%	5.0%	4.3%	3.0%	2.7%	2.7%	2.6%	2.2%	2.0%	1.6%	1.6%	1.5%	1.3%	0.9%	
'05	100.0%	53.0%	9.7%	43.4%	9.0%	8.1%	5.2%	4.3%	3.1%	2.8%	2.9%	2.6%	2.4%	2.0%	1.7%	1.6%	1.6%	1.3%	0.9%	
'06	100.0%	53.2%	10.1%	43.2%	9.4%	8.2%	5.2%	4.2%	3.1%	2.9%	2.8%	2.5%	2.3%	2.0%	1.8%	1.6%	1.5%	1.4%	1.0%	



わが国のプロスポーツ選手の登録人数
出典：日本プロスポーツ協会(1999)：プロスポーツ年鑑

図13 プロスポーツ選手の登録人数【出典：大澤(2000)¹⁶⁾】

表13 競技スポーツ人口【出典：大澤(2000)¹⁶⁾】

わが国の競技スポーツ人口 (体協加盟競技団体登録競技者数, 1988年)

団体名	登録競技者数	団体名	登録競技者数
陸上	182,403 人	相撲	36,300 人
水泳	110,000	馬術	4,197
サッカー	675,111	柔道	1,299,528
スキー	92,555	ソフトボール	283,375
テニス	1,500,000	フェンシング	6,727
漕艇	13,692	バドミントン	105,951
ホッケー	8,738	弓道	130,000
ボクシング	4,484	ライフル射撃	6,390
バレーボール	824,750	剣道	1,236,071
体操	35,434	近代五種	—
バスケットボール	632,702	ラグビー	138,300
スケート	7,031	山岳	80,000
レスリング	8,167	カヌー	2,436
ヨット	10,138	アーチェリー	12,335
ウエイトリフティング	3,039	空手道	11,060
ハンドボール	62,459	アイスホッケー	19,928
自転車	3,445	銃剣道	80,000
ソフトテニス	738,088	クレー射撃	3,338
卓球	200,999	なぎなた	31,588
軟式野球	1,175,620	合計	9,776,379 人

出典：日本体育協会資料

表14 運動・スポーツ実施レベルの設定と実施割合 (成人)

設定	適用	実施割合 (n=2,288)	推計人口 (万人)
レベル0	過去1年間にまったく運動・スポーツを実施しなかった	26.6%	2,706
レベル1	年1回以上, 週2回未満(1~103回/年)	28.1%	2,859
レベル2	週2回以上(104回/年以上)	9.2%	936
レベル3	週2回以上, 1回30分以上	20.0%	2,035
レベル4 (アクティブ・スポーツ人口)	週2回以上, 1回30分以上, 運動強度「ややきつい」以上	16.1%	1,638
計		100.0%	10,173

20歳以上の成人人口=101,730,947人 (H15住民基本台帳)

表15 成人の種目別運動・スポーツの実施率（年1回以上）

順位	種目	実施率 (%)	推計人口 (万人)
1	散歩(ぶらぶら歩き)	34.0%	3458
2	ウォーキング	21.6%	2197
3	体操(軽い体操)	18.6%	1892
4	ボウリング	16.4%	1668
5	筋力トレーニング	9.6%	976
〃	釣り	9.6%	976
7	海水浴	9.5%	966
8	水泳	9.3%	946
9	ゴルフ(コース)	9.2%	935
10	ゴルフ(練習場)	8.1%	824
11	サイクリング	7.6%	773
12	キャッチボール	7.5%	762
13	ジョギング・ランニング	6.6%	671
14	バドミントン	6.1%	620
〃	ハイキング	6.1%	620
16	卓球	6.0%	610
17	スキー	5.3%	539
18	なわとび	5.1%	518
19	野球	4.5%	457
20	ソフトボール	4.3%	437
21	登山	4.2%	427
22	キャンプ	3.9%	396
23	サッカー	3.7%	376
〃	テニス(硬式)	3.7%	376
〃	バレーボール	3.7%	376
26	グラウンドゴルフ	3.6%	366
27	アクアエクササイズ	3.4%	345
28	スノーボード	3.4%	345
29	ソフトバレー	3.0%	305
30	アイススケート	2.4%	244
〃	エアロビックダンス	2.4%	244
〃	綱引き	2.4%	244
55	ラグビー	0.2%	20

n=2, 288

20歳以上の成人人口=101, 730, 947人 (H15住民基本台帳)

表17 青少年の種目別運動・スポーツの実施率

(年1回以上：学校の授業以外)

	種目	実施率 (%)	推計人口 (万人)
1	サッカー	29.0%	373
2	バスケットボール	28.6%	368
3	バドミントン	24.8%	319
4	ドッジボール	24.3%	312
5	なわとび	24.1%	310
〃	水泳	24.0%	309
7	ボウリング	23.5%	302
8	キャッチボール	22.6%	291
9	筋力トレーニング	22.3%	287
10	ジョギング・ランニング	21.8%	280
11	卓球	21.7%	279
12	バレーボール	21.0%	270
13	野球	20.9%	269
14	体操(軽い体操)	18.7%	240
〃	かけっこ	17.3%	222
16	ウォーキング	14.8%	190
17	サイクリング	13.0%	167
18	海水浴	12.1%	156
19	陸上競技	12.0%	154
20	スキー	11.8%	152
—	ラグビー	1.2%	15
—	タグラグビー	0.7%	9

n=1, 806

10代人口=12, 856, 314人 (H16年3月31日住民基本台帳)

表18 青少年が「よく行った」運動・スポーツ

	種目	実施率 (%)	推計人口 (万人)
1	サッカー	20.3%	261
2	バスケットボール	17.0%	219
3	野球	14.5%	186
4	バレーボール	13.7%	176
5	バドミントン	12.6%	162
6	水泳	10.9%	140
7	卓球	9.2%	118
8	ドッジボール	8.5%	109
9	筋力トレーニング	8.2%	105
10	ジョギング・ランニング	7.8%	100
11	ソフトテニス(軟式)	7.7%	99
12	テニス(硬式)	6.6%	85
13	陸上競技	6.1%	78
〃	ボウリング	6.1%	78
15	キャッチボール	5.6%	72
16	なわとび	5.2%	67
17	ソフトボール	4.5%	58
18	ウォーキング	3.8%	49
19	サイクリング	3.3%	42
20	剣道	3.2%	41

n=1, 594

10代人口=12, 856, 314人 (H16年3月31日住民基本台帳)

表16 運動・スポーツ実施レベルの設定と実施割合（青少年）

設定	適用	実施割合		推計人口 (万人)
		2001 (n=1, 358)	2005 (n=1, 806)	
レベル0	非実施(0回/年)	12.5%	11.7%	151
レベル1	年1回以上, 週1回未満(1~51回/年)	19.4%	9.6%	124
レベル2	週1回以上, 週5回未満(52~259回/年)	27.7%	27.7%	357
レベル3	週5回以上(260回以上)	20.1%	22.4%	288
レベル4 (アクティブ・スポーツ人口)	週5回以上, 1回120分以上, 運動強度「ややきつ い」以上	20.3%	28.5%	367
計		100.0%	100.0%	1, 286

10代人口=12, 856, 314人 (H16年3月31日住民基本台帳)

表19 全国小学生タグラグビー選手権大会参加チーム数

	第1回 04fy	第2回 05fy	第3回 06fy
北海道	19		50
青森	0	4	
岩手	33	31	42
宮城	15	32	
秋田	10	16	
山形	9	8	
福島	5	8	
茨城	14	23	29
栃木	2	12	
群馬	0	5	
埼玉	33	16	10
千葉	13	24	35
東京区内	24	14	
東京区外	17	24	28
神奈川	8	12	48
新潟	3	15	8
富山	0	6	
石川	0	1	3
福井	0	0	
山梨	15	10	12
長野	8	15	
岐阜	6	13	27
静岡	9	16	24
愛知	3	3	
三重	5	6	9
滋賀	5	6	7
京都	27	39	44
大阪	12	13	20
兵庫	8	22	6
奈良	10	9	
和歌山	3	4	6
鳥取	1	0	
島根	10	8	5
岡山	0	4	
広島	4	7	5
山口	6	5	
徳島	4	20	
香川	12	13	12
愛媛	7	9	8
高知	0	4	7
福岡	17	16	16
佐賀	21	30	36
長崎	17	18	13
熊本	17	15	21
大分	9	12	11
宮崎	21	21	
鹿児島	24	35	
沖縄		25	
計	477	639	
[参考] 全国大会	12	12	16

【出典：全国小学生タグラグビー選手権大会ホームページ²¹⁾】

【出典：日本ラグビー協会：機関誌「RUGBY FOOTBALL」²²⁾】